

始



大正十三年

帝國學士院一覽

(大正十三年四月調)

帝國學士院一覽

目次

第十	議	松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ニ關スル決議	五二頁
第九	議	末松子爵夫人寄附羅馬法獎勵資金ノ使途ニ關スル決議	五一頁
第八	議	藤田男爵獎學費給與ニ關スル決議	五〇頁
第七	議	條件附寄附金ニ關スル決議	五〇頁
第六	議	寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議	四九頁
第五	議	賜賞ニ關スル決議	四九頁
第四	議	帝國學士院授賞規則	四二頁
第三	議	帝國學士院會則	三五頁
第二	議	帝國學士院規程	三〇頁
第一	議	沿革略	一頁



寄贈本

13. 5. 31

寄贈

97-392

目次

第十一	大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學術獎勵資金ノ使途ニ關スル決議	五三頁
第十二	學術研究費補助ニ關スル決議	五四頁
第十三	學術研究費補助推薦ニ關スル決議	五五頁
第十四	出版ニ關スル決議	五六頁
第十五	帝國學士院紀事及別冊ノ出版ニ關スル決議	五六頁
第十六	學術獎勵金	五七頁
第十七	役員	六六頁
第十八	會員	六六頁
第十九	事務職員	七〇頁
第二十	事業擔當會員囑託員及出版委員	七一頁
第二十一	論文	七四頁
第二十二	出版	八三頁
第二十三	受賞者	八五頁

二

目次

第二十四	藤田男爵獎學費受費者	九二頁
第二十五	子爵夫人末松生子羅馬法獎學品受品者	九五頁
第二十六	補助研究事項	一〇〇頁
第二十七	東照宮三百年祭記念會へ補助推薦ノ研究事項	一一一頁
第二十八	帝國學士院前役員	一一七頁
第二十九	帝國學士院前會員及前客員	一一八頁
第三十	元東京學士會院役員	一二二頁
第三十一	元東京學士會院會員及客員	一二四頁
第三十二	大正七年五月十二日帝國學士院授賞式ニ於ケル總積院長ノ演說	一三〇頁
第三十三	明治四十四年七月五日恩賜賞授與式ニ於ケル菊池前院長ノ演述	一三七頁

三



帝國學士院一覽

(大正十三年四月調)

第一 沿革略

帝國學士院ハ元ト東京學士會院ト稱セリ今其ノ起原沿革ヲ略叙スレハ

文部卿西郷從道當時文部省雇顧問タリシ米人モルレー氏ノ建議ニ由リ學士會院ヲ設クルノ必要ヲ認メ乃チ東京學士會院規則大意及選舉案ヲ西周加藤弘之神田孝平津田眞道中村正直福澤諭吉箕作秋坪ノ七名ニ諮詢シテ其ノ協賛ヲ得以テ之ヲ創設スルニ至レリ

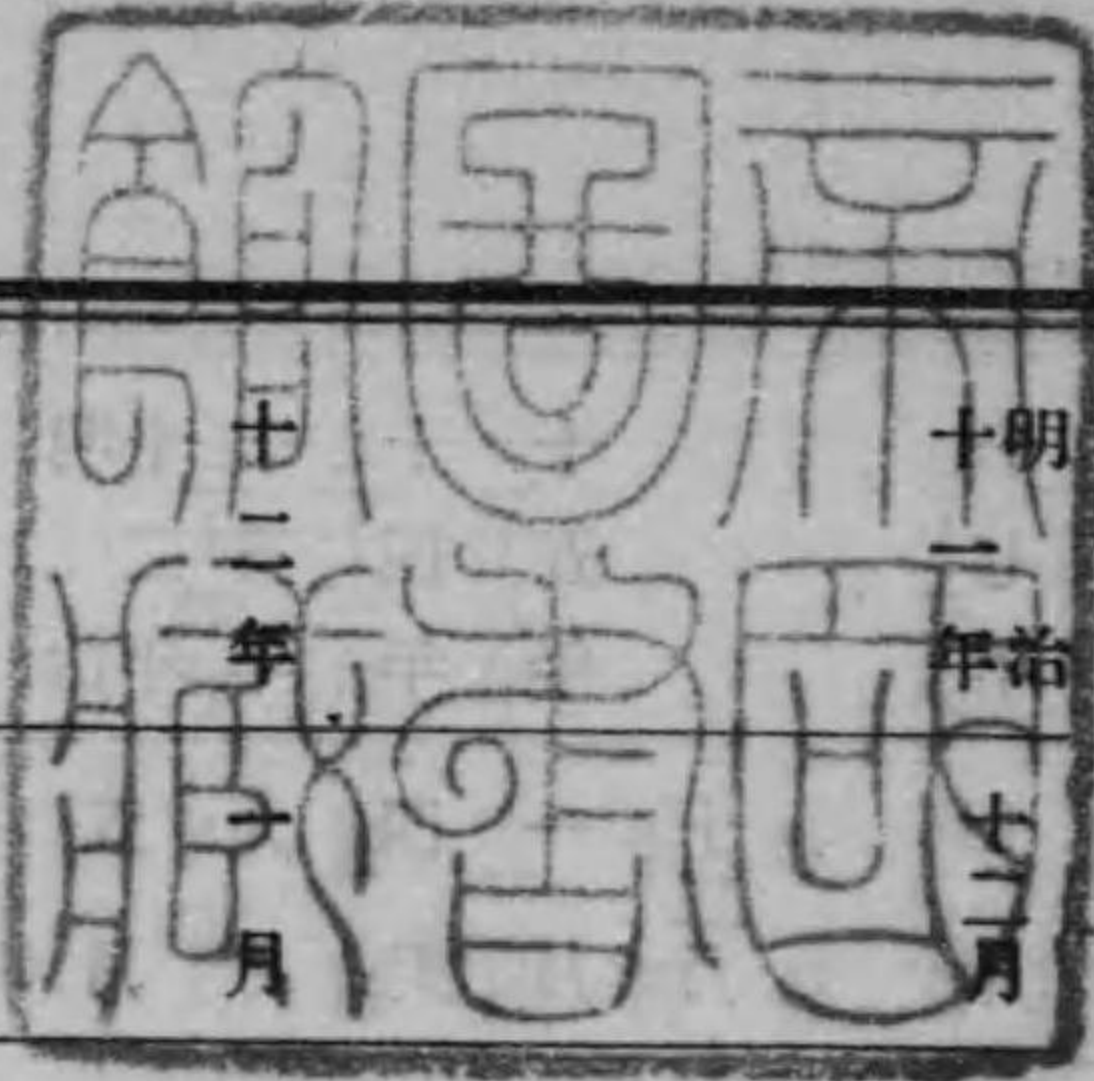
文部大輔田中不二麿(文部卿 缺員)右西周以下ノ七名ヲ東京學士會院

ノ會員ニ選舉シ其ノ報帖ヲ交付シ文部省内修文館ヲ假用シ東

京學士會院ヲ置ク

東京學士會院規則ヲ定ム其ノ要項ハ教育ノ事ヲ討議シ學術技

四月



沿革略

明治	十二年	十三年	十四年	十五年	十七年	十八年	帝國學士會院
五月	九月	四月	一月	十二月	十月	十二月	四月
藝ヲ評論スルヲ以テ主トシ會員ハ四十名ヲ限リ東京學士會院ニ於テ選舉シ文部卿ノ認可ヲ經ルノ制ナリ	東京學士會院雜誌ヲ發行ス	東京學士會院ヲ湯島昌平館ニ移ス	東京學士會院ヲ修文館ニ移ス	東京學士會院ヲ再ヒ昌平館ニ移ス	昌平館類焼ニ罹リ本院會場器具及藏書百七十部ヲ燒失ス尋テ本院ヲ修文館ニ假設ス	東京學士會院ヲ東京教育博物館(上野)ニ移ス	文部卿大木喬任東京學士會院組織大綱ヲ示ス其ノ要旨ハ學藝ノ品位ヲ高クシ以テ教化ノ裨補ヲ圖ルニ在リ會員ハ帝室ノ御選ニ係ル者十五名會員ノ推選ニ係ル者二十五名ヨリ成ル等ナ
							舊規則ヲ廢シ更ニ右大綱ニ基キ會則ヲ定メ同年九月ヨリ實施

十九年	二十三年	二十八年	三十三年	三十四年	三十九年
十一月	三月	三月	五月	六月	六月
ス	東京學士會院ヲ東京教育博物館構内新築館(上野)ニ移ス	文部省ヨリ古事類苑編纂ノ囑託ヲ解カル	勅令第二百六十四號ヲ以テ東京學士會院規程ヲ發布セラル	文部大臣ノ認可ヲ經テ會則ヲ定ム	勅令第十七號ヲ以テ東京學士會院規定補則ヲ發布セラル
會員ノ講演ヲ公開ス	文部大臣ヨリ從來文部省編輯局ニテ從事セシ古事類苑ノ編纂ヲ本院ニ囑託サル	東京學士會院雜誌ヲ廢シ同年七月ヨリ東洋學藝社ト、ス	定期刊行ノ東京學士會院雜誌ヲ廢シ同年七月ヨリ東洋學藝社ト、ス	勅令第四百四十九號ヲ以テ帝國學士會院規程ヲ發布セラル	

明治三十九年

七月 同月

文部大臣ノ認可ヲ經テ會則ヲ定ム

院長幹事部長ノ選舉ヲ行ヒ院長ニ文學博士法學博士男爵加藤

弘之幹事ニ文學博士重野安釋第一部々長ニ法學博士穗積陳重

第二部々長ニ理學博士男爵菊池大麓當選就任ス

和算史調査ノ件ヲ議決シ同月ヨリ着手ス

文部大臣ノ認可ヲ經テ會則ヲ改正ス

帝國學士院ハ萬國學士院聯合會ニ加入ス

明治三十四年六月東洋學藝社ト契約セシ件ヲ解ク

會員文學博士重野安釋同理學博士男爵菊池大麓奧國維也納府

ニ於ケル第三回萬國學士院聯合會ヘ委員トシテ參列被仰付

國語調査委員會ノ編輯ニ係ル假名遣及假名字體沿革史料ヲ本

院ニ於テ出版スルコトニ議決シ同月ヨリ着手ス

出版ニ關スル決議及學術研究費補助ニ關スル決議ヲ議定ス

文部大臣ノ認可ヲ經テ會則ヲ追加ス

四十年

四月 同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

出版ニ關スル決議ヲ修正ス

帝國學士院紀事出版ニ關スル第二部決議ヲ議定ス

伊能忠敬測地事蹟ヲ調査スルコトニ議決シ同年八月ヨリ着手

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

出版ニ關スル決議ヲ修正ス

帝國學士院紀事出版ニ關スル第二部決議ヲ議定ス

伊能忠敬測地事蹟ヲ調査スルコトニ議決シ同年八月ヨリ着手

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

同月

明治四十三年	四月	陳重第二部々長ニ工學博士古市公威當選シ文部大臣ノ認可ヲ經テ七月就任ス
四月	會員理學博士櫻井錠二ヲ伊國羅馬府ニ於ケル第四回萬國學士院聯合大會ヘ帝國學士院代表委員トシテ參列セシムル件ヲ議決ス	
五月	會員醫學博士三浦謹之助ヘ本院會員ノ代表者トシテベルリン大學創立百年祝賀式ニ參列ヲ委囑ス	
七月	左ノ御沙汰書ヲ拜受ス	
七月	其院ノ目的ヲ遂行スル爲メ普ク學術ノ研究ヲ獎勵スル旨趣ヲ以テ授賞ノ制ヲ定メントスルノ計畫有之候趣被	
七月	帝候事	
明治四十三年七月五日		

宮内省

四十四年	十月	文部大臣ノ認可ヲ經テ本院授賞規則ヲ定ム
三月	恩賜賞ニ關スル決議ヲ議定ス(四月追加議決)	
三月	法律第三十八號ヲ以テ帝國學士院學術獎勵金特別會計法ヲ發布セラル	
三月	勅令第六十九號ヲ以テ帝國學士院學術獎勵金特別會計規則ヲ發布セラル	
四月	日英博覽會ヨリ本院出品物ニ對シ賞狀並ニ賞牌ヲ贈與セラル	
六月	會員理學博士大森房吉ヘ本院會員ノ代表者トシテプレスラウ大學創立百年祝賀式ニ參列ヲ委囑ス	
七月	理學博士木村榮ニ恩賜賞ヲ授與ス	
七月	男爵三井八郎右衛門及男爵岩崎久彌ヨリ學術研究獎勵ノ爲各向フ十箇年間毎年金壹千圓ノ合計金壹萬圓寄附致度旨申出アリ之ヲ受諾スルコトニ議決ス	
十一月	出版ニ關スル決議ヲ修正ス	

明治四十四年

十一月

寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議ヲ議定ス

十二月

帝國學士院紀事出版ニ關スル第二部決議ヲ廢シ更ニ帝國學士院紀事及別冊ノ出版ニ關スル決議ヲ議定ス

四十五年

三月

帝國學士院紀事第一卷第一ヲ發行ス

五月

法學博士文學博士有賀長雄富士川游平瀬作五郎池野成一郎へ各恩賜賞ヲ工學博士藥學博士高峰讓吉へ帝國學士院賞ヲ授與ス

六月

寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議ヲ修正ス

同月

院長幹事部長ノ改選ヲ行ヒ院長ニ理學博士男爵菊池大麓幹事

同月

ニ法學博士宮崎道三郎第一部長ニ法學博士穂積陳重第二部長ニ工學博士古市公威當選シ文部大臣ノ認可ヲ經テ七月就任ス

大正元年

十月

工學博士藥學博士高峰讓吉ヨリ學術研究獎勵ノ爲金五千圓寄附致度旨申出アリ之ヲ受諾スルコトニ議決ス

二年

十二月

男爵住友吉左衛門ヨリ學術研究獎勵ノ爲向フ十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓寄附致度旨申出アリ之ヲ受諾スルコトニ議決ス

三月

帝國學士院紀事第一卷第二ヲ發行ス

四月

會員理學博士坪井正五郎ヲ露國聖彼得堡得ニ於ケル第五回萬國學士院聯合大會へ帝國學士院代表委員トシテ參列セシムル件ヲ議決ス

五月

大正二年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス

六月

帝國學士院第一部論文集第一號ヲ發行ス

七月

村岡良弼醫學博士上阪熊勝へ各恩賜賞ヲ理學博士五島清太郎近藤基樹へ各帝國學士院賞ヲ授與ス

同月

法學博士宮崎道三郎幹事ヲ辭任セルニ付補缺選舉ヲ行ヒ理學博士櫻井鏡二當選シ文部大臣ノ認可ヲ經テ同月就任ス

十一月

エデンボロ一皇立學士院及ヘルシングフォールス學士院ノ萬

大正二年	三年	四年	五年	六年
十一月	三月	三月	三月	三月
同月	四月	五月	五月	五月
十二月	五月	七月	七月	七月
同月	十二月	十二月	十二月	十二月

國學士院聯合會へ加入ノ件ニ同意ヲ與フルコトニ議決ス、萬
帝國學士院紀事第一卷第三ヲ發行ス、
帝國學士院第二部、メオアル第一卷第一ヲ發行ス、
羅馬法ニ關スル書籍翻譯事業中、ユ帝欽定羅馬法學提要成リ書
房ヲシテ刊行セシム(大正四年二月訂正増補再版發行)
古河虎之助ヨリ學術研究獎勵ノ爲向フ十箇年間毎年金壹千圓
ツ、合計金壹萬圓寄附致度旨申出アリ之ヲ受諾スルコトニ議
決ス、
萬國學士院聯合會評議員改選ニ付院長理學博士男爵菊池大麓
第一部々長法學博士穗積陳重ヲ評議員ニ選定ス、
大正三年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス、
醫學博士田原淳へ恩賜賞ヲ付添進一郎理學博士日下部四郎太
へ各帝國學士院賞ヲ授與ス、
著者名入書方ニ關スル件ヲ議決ス、

大正四年	五年	六年	七年	八年
同月	同月	同月	同月	同月
同月	同月	同月	同月	同月
同月	同月	同月	同月	同月
同月	同月	同月	同月	同月

勅令第二百五十八號ヲ以テ帝國學士院會員ハ勅任官ヲ以テ待
遇セラルヘキ旨公布セララル、
帝國學士院紀事第一卷第四ヲ發行ス、
羅馬法ニ關スル書籍翻譯事業中ウルピアトヌス羅馬法範及ガ
イウス羅馬法解説成リ書房ヲシテ刊行セシム(前書ハ大正六年六
月後書ハ同年八月
訂正増補再版發行)
大正四年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス、
院長幹事部長ノ改選ヲ行ヒ院長ニ理學博士男爵菊池大麓幹事
ニ理學博士櫻井銳二第一部長ニ法學博士穗積陳重第二部長
長ニ工學博士古市公威當選シ文部大臣ノ認可ヲ經テ七月就任
ス、
法律第十二號ヲ以テ帝國學士院學術獎勵金特別會計法ハ大正
四年度限り之ヲ廢止スル旨公布セララル、
法律第十三號ヲ以テ帝國學士院ニ於テ學術研究獎勵ノ爲ニ要

大正四年	七月	スル金額ハ之ヲ帝國學士院長ニ交附シ經理ヲ委任スルコトヲ得ヘキ旨公布セラル(施行期大正五年四月一日)
	十月	醫學博士理學博士野口英世へ恩賜賞ヲ子爵金允植、農學博士外山龜太郎へ各帝國學士院賞ヲ授與ス
	十一月	男爵藤田平太郎ヨリ學術研究獎勵ノ爲獎學資金トシテ金貳萬圓羅馬法研究出版費トシテ金貳千圓各寄附致度旨申出アリ之ヲ承諾スルコトニ議決ス
	十二月	御即位ノ大禮奉賀ノ爲賀表ヲ捧呈ス
	同月	院長理學博士男爵菊池大麓本院會員總代幹事理學博士櫻井銳二御即位ノ大禮式ニ參列ス
五年	四月	東照宮三百年祭記念會ヨリ學術研究費ノ補助ヲ要スヘキモノ、推薦ノ依頼ヲ承諾スルコトニ議決ス
同月	同月	文部大臣ノ認可ヲ經テ會則及授賞規則ヲ修正ス
		東照宮三百年祭記念會へ推薦スヘキ學術研究費補助ノ件ヲ議

大正五年	五月	決ス
	六月	大正五年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス
	同月	三井合名會社々長男爵三井八郎右衛門ヨリ出版費トシテ金參千圓寄附致度旨申出アリ之ヲ受諾スルコトニ議決ス
	同月	山下龜三郎ヨリ學術研究獎勵ノ爲向フ十箇年間毎年金壹千圓宛又ハ他ノ納付方法ニ依リ合計金壹萬圓寄附致度旨申出アリ之ヲ承諾スルコトニ議決ス
	同月	臨時學術研究費補助ノ件ヲ議決ス
	七月	大矢透文學博士林泰輔醫學博士稻田龍吉及井戸泰へ各恩賜賞ヲ、工學博士鳥瀧一、鯨井恒太郎、横山英太郎、北村政次郎及理學博士本多光太郎へ各帝國學士院賞ヲ授與ス
	十月	立太子式奉賀ノ爲 天皇陛下并ニ皇太子殿下ニ賀表ヲ捧呈ス
六年	二月	故桂公爵記念事業會總代男爵澁澤榮一ヨリ桂學術獎勵基金貳萬圓ヲ寄附致旨申出アリ之ヲ受諾スルコトニ議決ス

大正六年

二月
三月
四月
五月
六月
七月
八月
九月
十月
十一月
十二月

東照宮三百年祭記念會へ推薦スヘキ學術研究費補助ノ件ヲ議決ス
藤田男爵獎學費給與ニ關スル決議ヲ議定ス
臨時學術研究費補助ノ件ヲ議決ス
伊能忠敬測地事蹟ノ調査成リ書房ヲシテ伊能忠敬ヲ刊行セシム
和算史調査事業ニ屬スル「方陣問題」ノ編纂成リ之ヲ刊行ス
大正六年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス
文學博士佐々木信綱理學博士寺田寅彦へ各恩賜賞ヲ理學博士眞島利行理學博士西川正治へ各帝國學士院賞ヲ授與ス
院長理學博士男爵菊池大麓薨去セルニ付院長ノ補缺選舉ヲ行ヒ法學博士男爵穂積陳重當選シ文部大臣ノ認可ヲ經テ同月就任ス
故理學博士男爵菊池大麓ノ擔當セシ和算史ノ調査ヲ理學博士

七年

二月
三月
四月
五月
六月
七月
八月
九月
十月
十一月
十二月

藤澤利喜太郎へ委囑スルコトニ議決ス
第一部々長法學博士男爵穂積陳重院長ニ就任セルニ付第一部々長ノ補缺選舉ヲ行ヒ文學博士井上哲次郎當選シ文部大臣ノ認可ヲ經テ同月就任ス
大正六年度羅馬法學獎學費藤田男爵獎學費給與ノ件ヲ議決ス
東照宮三百年祭記念會へ推薦スヘキ學術研究費補助ノ件ヲ議決ス
會員理學博士藤澤利喜太郎著「諸外國學士院ノ組織及授賞制」ヲ再版發行ス
子爵夫人末松生子ヨリ羅馬法獎勵資金トシテ有價證券額面金五千百圓寄附致度旨申出アリ之ヲ受諾スルコトニ議決ス
英國倫敦ニ於ケル聯合諸國「サイエンティフィックアカデミー」代表者會議ニ帝國學士院代表委員トシテ會員理學博士櫻井錠二並ニ理學博士田中館愛橘ヲ參列セシムル件ヲ議決ス

大正七年

五月	和田英松、木村泰賢、理學博士柴田桂太へ各恩賜賞ヲ、醫學博士理學博士桂田富士郎、醫學博士藤浪鑑へ各帝國學士院賞ヲ、法學博士瀧本誠一へ桂公爵記念賞ヲ授與ス
同月	大正七年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス
六月	院長、幹事、部長ノ改選ヲ行ヒ、院長ニ法學博士男爵穂積陳重、幹事ニ理學博士櫻井錠二、第一部々長ニ文學博士井上哲次郎、第二部々長ニ工學博士古市公威當選シ、文部大臣ノ認可ヲ經テ七月就任ス
七月	子爵夫人末松生子寄附羅馬法獎勵資金ノ使途ニ關スル議決ヲ議定ス
十六月	大正七年度羅馬法學獎學費藤田男爵獎學費給與ノ件ヲ議決ス
九月	故遠藤利貞著「日本數學史」ヲ增修刊行ス
十月	帝國學士院紀事第一卷第五ヲ發行ス
同月	大正七年度採礦冶金學及關係學科獎勵費藤田男爵獎學費給與

七年

十月	ノ件ヲ議決ス
同月	大正七年度子爵夫人末松生子羅馬法獎學品贈與ノ件ヲ議決ス
十一月	文部大臣ノ認可ヲ經テ會則ヲ修正ス
十二月	會員理學博士櫻井錠二、理學博士田中館愛橘、倫敦及巴里ニ於ケル萬國學術研究會議設立ニ關スル會議ニ帝國學士院代表委員トシテ參列ス
十二月	臨時學術研究費補助ノ件ヲ議決ス
二月	東照宮三百年祭記念會へ推薦スヘキ學術研究費補助ノ件ヲ議決ス
三月	寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル議決及學術研究費補助ニ關スル議決ヲ修正ス
同月	帝國學士院第一部論文集邦文第二號ヲ發行ス
五月	皇太子殿下御成年式奉賀ノ爲、天皇陛下并ニ皇太子殿下ニ賀表ヲ捧呈ス

大正八年

五月

白耳義ブラッセルスニ於ケル萬國學術研究會議第一回總會ニ帝國學士院代表委員トシテ會員理學博士田中館愛橘ヲ參列セシムル件ヲ議決ス

同月

大正八年度學術研究費補助ノ件及臨時學術研究費補助ノ件ヲ議決ス

同月

理學博士石原純へ恩賜賞ヲ高田忠周醫學博士山極勝三郎獸醫學博士市川厚一及石川登喜治へ各帝國學士院賞ヲ授與ス

六月

學術研究會議設立ニ關スル建議書ヲ內閣總理大臣並ニ文部大臣ニ提出ス

同月

佛國巴里ニ於ケル「ユニオンアカデミック」ノ組織ニ關スル會議ニ帝國學士院代表委員トシテ會員文學博士高楠順次郎并ニ法學博士小野塚喜平次ヲ參列セシムル件ヲ議決ス

七月

大正八年度羅馬法學獎學費並ニ探礦冶金學及關係學科獎學費(藤田男爵獎學費)給與ノ件ヲ議決ス

八年

十一月

大正八年度子爵夫人末松生子羅馬法獎學品贈與ノ件ヲ議決ス次ノ各御沙汰書ヲ拜受ス

九年

一月

帝國學士院

其院去ル明治四十三年授賞ノ制設定ニ際シ賞典資トシテ十ヶ年間々々金貳千圓下賜ノ處成績顯著ニ付大正九年度以降引續十ヶ年間々々下賜候事

大正九年一月七日

宮内省

帝國學士院

其院學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜候事

大正九年一月七日

宮内省

白耳義ブラッセルスニ於ケル第一回萬國學士院聯合會會議ニ帝國學士院代表委員トシテ會員文學博士服部宇之吉并ニ法學博士織田萬參列ノ件ヲ議定ス
東照宮三百年祭記念會へ推薦スヘキ學術研究費補助ノ件ヲ議

大正九年	二月	決ス 帝室制度ノ歴史的研究ヲ本院ノ事業トシテ遂行スル件ヲ議決シ會員法學博士岡野敬次郎(主任)文學博士三上參次法學博士美濃部達吉ヲ擔當委員ニ選定シ後更ニ文學博士服部宇之吉ヲ追加選定ス
	四月	大正九年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス
	五月	文學博士三浦周行及工學博士辻本滿丸へ各恩賜賞ヲ、大村西崖及理學博士藤原咲平へ各帝國學士院賞ヲ、理學博士早田文藏へ桂公爵記念賞ヲ授與ス
	七月	大正九年度羅馬法學獎學費並ニ探鑛冶金學及關係學科獎學費(藤田男爵獎學費)給與ノ件ヲ議決ス
	八月	曩ニ總理大臣並ニ文部大臣ニ建議セル學術研究會議設立ノ件ニ就キ政府當局ニ於テ審議ヲ遂ケ勅令第二百九十七號ヲ以テ其ノ官制ヲ制定公布セララル

十年	一月	次ノ御沙汰書ヲ拜受ス 其院學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜候事 大正十年一月十日 宮内省
	十二月	學術研究會議第一回總會ヲ文部省内ニ招集シ會長及副會長ノ選舉ヲ行ヒタル結果會長ニ工學博士男爵古市公威、副會長ニ理學博士櫻井錠二當選即日文部大臣ノ認可ヲ經テ就任セルニ付院長法學博士男爵穗積陳重ハ會長工學博士男爵古市公威ニ對シ學術研究會議ニ關スル事務ノ引繼ヲ了ス
	十一月	大正九年度子爵夫人末松生子羅馬法獎學品贈與ノ件ヲ議決ス
	同月	工學博士男爵古市公威外九十三名ニ對シ學術研究會議會員仰付ケラル
	同月	白耳義ブラッセルスニ於ケル第二回萬國學士院聯合會議へ帝國學士院代表委員トシテ會員法學博士岡松參太郎並ニ文學博

大正十年	
二月	士三上參次ヲ參列セシムル件ヲ議決ス 東照宮三百年祭記念會へ推薦スヘキ學術研究費補助ノ件ヲ議決ス
四月	大正十年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス 文學博士辻善之助及醫學博士布施現之助へ各恩賜賞ヲ、理學博士松本彦七郎及工學博士倭國一へ各帝國學士院賞ヲ、藥學博士田原良純へ桂公爵記念賞ヲ授與ス
五月	院長幹事部長ノ改選ヲ行ヒ院長ニ法學博士男爵穗積陳重、幹事ニ理學博士櫻井銳二、第一部長ニ文學博士井上哲次郎、第二部長ニ理學博士藤澤利喜太郎當選シ文部大臣ノ認可ヲ經テ七月就任ス
六月	大正十年度探鑛冶金學及關係學科獎學費藤田男爵獎學費給與ノ件ヲ議決ス
同月	大正十年度羅馬法學獎學費藤田男爵獎學費給與ノ件ヲ議決ス
七六月	大正十年度羅馬法學獎學費藤田男爵獎學費給與ノ件ヲ議決ス

十一年	
九月	皇太子殿下海外御巡遊ヨリ御歸還奉賀ノ爲賀表ヲ捧呈ス
十月	三菱合資會社々長男爵岩崎小彌太ヨリ學術研究獎勵ノ爲賞典資トシテ大正十年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓寄附致度旨申出アリ之ヲ受領スルコトニ議決ス
同月	三井家總代男爵三井八郎右衛門ヨリ學術研究獎勵ノ爲第二部ニ屬スル賞典資トシテ大正十年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓寄附致度旨申出アリ之ヲ受領スルコトニ議決ス
十一月	東照宮三百年祭記念會へ推薦スヘキ學術研究費補助ノ件ヲ議決ス
同月	大正十年度子爵夫人末松生子羅馬法獎學品贈與ノ件ヲ議決ス
一月	次ノ御沙汰書ヲ拜受ス
十一月	其院學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜候事

帝國學士院

大正十一年

宮内省

一月
二月
三月
四月
五月
六月
七月
八月
九月
十月
十一月
十二月

大正十一年一月十二日
白耳義ブラツセルスニ於ケル第三回萬國學士院聯合會會議へ
帝國學士院代表委員トシテ會員文學博士井上哲次郎並ニ法學
博士美濃部達吉ヲ參列セシムル件ヲ議決ス
白耳義ブラツセルスニ於ケル白耳義學士院創立百五十年祝賀
式へ帝國學士院代表委員トシテ文學博士井上哲次郎理學博士
中村精男理學博士平山信並ニ法學博士美濃部達吉ヲ參列セシ
ムル件ヲ議決ス
東京市上野公園ニ於テ開催セル平和記念東京博覽會ニ各授賞
關係品其他ノ參考品ヲ出品ス
松方公爵米壽祝賀會發起人總代法學博士男爵阪谷芳郎並ニ平
山成信ヨリ松方公爵米壽祝賀記念獎學資金(後拾八萬圓ト決定
ヲ寄附致度旨申出アリ)之ヲ受領スルコトニ議決ス
松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ノ使用方法ニ關スル決議條項

同月
五月
六月
七月
十月
十一月

ヲ議決ス
大正十一年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス
理學博士高嶺俊夫及理學博士吉田卯三郎へ各恩賜賞ヲ醫學博
士清野謙次及工學博士末廣恭二へ各帝國學士院賞ヲ授與ス
大正十一年度羅馬法學獎學費並ニ探礦冶金學及關係學科獎學
費(藤田男爵獎學費)給與ノ件ヲ議決ス
財團法人原田積善會理事原田二郎ヨリ學術研究獎勵ノ爲大正
十二年ヨリ向フ壹百箇年間毎年金壹萬圓ツ、合計金壹百萬圓
ヲ寄附致度旨申出アリ之ヲ受領スルコトニ議決ス
男爵住友吉左衛門ヨリ學術研究獎勵ノ爲大正十一年ヨリ向フ
十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓寄附致度旨申出アリ
之ヲ受領スルコトニ議決ス
來朝中ノ獨逸科學者アインシュタイン博士歡迎會ヲ植物園ニ
於テ舉行シ「歡迎の辭」ヲ贈呈ス

大正十一年

十二月

大正十一年度子爵夫人末松生子寄附羅馬法獎學品贈與又ハ寄贈ノ件ヲ議決ス

同月

白耳義ブラツセルスニ於ケル第四回萬國學士院聯合會會議並ニ第五回萬國史學會々議ヘ帝國學士院代表委員トシテ會員文學博士上田萬年並ニ法學博士立作太郎ヲ參列セシムル件ヲ議決ス

十二年

一月

次ノ御沙汰書ヲ拜受ス

帝國學士院

其院學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜候事

同月

大正十二年一月十一日

宮内省

高峰保全株式會社取締役鹽原又策ヨリ學術研究ノ賞又ハ資ノ基金トシテ大正十二年ヨリ向フ五箇年間毎年金五千圓ツ、合計金貳萬五千圓ヲ又三共株式會社取締役鹽原又策ヨリ三箇年ニ涉リ金貳千圓寄附致度旨申出アリ之ヲ受領スル事ニ議決ス

大正十一年

同月

東照宮三百年祭記念會ヘ推薦スヘキ學術研究費補助ノ件ヲ議決ス

二月

男爵古河虎之助ヨリ學術研究獎勵ノ爲大正十二年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓寄附致度旨申出アリ之ヲ受領スルコトニ議決ス

三月

寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ニ關スル決議及學術研究補助ニ關スル決議ヲ修正ス

四月

松方公爵米壽祝賀會發起人總代平山成信ヨリ松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ノ利子ニ加ヘ獎學ノ目的ニ使用スル爲金五千四百五拾四圓ヲ寄附致度旨申出アリ之ヲ受領スルコトニ議決ス

同月

山下龜三郎ヨリ國際關係ノ學事費ニ充ツル爲大正十二年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附致度旨申出アリ之ヲ受領スルコトニ議決ス

大正十二年

四月	大正十二年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス
五月	徳富猪一郎、柿村重松、藥學博士朝比奈泰彦、理學博士木下季吉へ各恩賜賞ヲ授與ス
六月	子爵夫人末松生子寄附ニ係ル大正十二年度羅馬法獎學品贈與又ハ寄贈ノ件ヲ議決ス
同月	大正十二年度羅馬法學獎學費並ニ採鑛冶金學及關係學科獎學費、藤田男爵獎學費給與ノ件ヲ議決ス
同月	松方公爵米壽祝賀會殘務整理委員男爵阪谷芳郎ヨリ松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ノ一部トシテ金五百六拾圓ヲ寄附致度旨申出アリ之ヲ受領スルコトニ議決ス
九月	大震災災ノ爲本院會議室ノ一部ヲ日本赤十字社福島支部救護班執務ノ爲提供シ尙罹災者收容ニ充ツ
十一月	大阪毎日新聞社長本山彦一ヨリ東宮御成婚記念學術獎勵資金トシテ大正十三年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹萬圓ツ、合計金

大正十三年

十二月	拾萬圓ヲ寄附致度旨申出アリ之ヲ受領スルコトニ議決ス
同月	寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議ヲ修正ス
同月	大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學術研究資金ノ使途ニ關スル條項ヲ議決ス
同月	白耳義ブラツセルスニ於ケル第五回萬國學士院聯合會々議へ帝國學士院代表委員トシテ在歐會員法學博士織田萬並ニ文學博士松本亦太郎ヲ參列セシムル件ヲ議決ス
一月	次ノ御沙汰書ヲ拜受ス
同月	其院學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜候事
同月	大正十三年一月九日 宮内省
同月	第五回萬國學士院聯合會々議本院代表委員織田會員後任トシテ在白日本大使法學博士安達峰一郎ニ參列ヲ委囑スヘキ件ヲ議決ス

帝國學士院

大正十三年

一月	東照宮三百年祭記念會へ推薦スヘキ學術研究費補助ノ件ヲ議決ス
同月	東宮殿下御慶事奉祝ノ爲 天皇陛下並ニ東宮殿下ニ賀表ヲ捧呈ス
四月	大正十三年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス

第二 帝國學士院規定

勅令第四百十九號(明治三十九年六月十二日)

帝國學士院規定

- 第一條 帝國學士院ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ學術ノ發達ヲ圖リ教化ヲ裨補スルヲ以テ目的トス
- 第二條 帝國學士院會員ハ帝國學士院ニ於テ碩學中ヨリ推選シ勅旨ヲ以テ之ヲ

命ス

- 第三條 外國人ニシテ帝國ニ於ケル學術ノ發達ニ關シ特別ノ功勞アル者ハ帝國學士院ニ於ス之ヲ客員ト爲スコトヲ得
- 第四條 帝國學士院ハ左ノ二部ニ分チ會員ハ各專攻ノ學科ニ依リテ之ニ分屬ス
 - 第一部 文學及社會的諸學科
 - 第二部 理學及其ノ應用諸學科
- 第五條 帝國學士院會員ノ定員ハ六十人トス
- 第六條 帝國學士院ハ會議ヲ開キ學術及教化ニ關スル事項ヲ審議ス會議ハ總會及部會トス
- 第七條 帝國學士院會員ハ專攻ノ學科ニ付論文ヲ提出シ又ハ報告ヲ爲スモノトス
- 第八條 帝國學士院ハ學術ニ關スル論文考案資料等ヲ募集スルコトヲ得
- 第九條 帝國學士院ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ外國ニ於ケル學術上ノ團體ト共同シテ研究ヲ爲シ又ハ其ノ會員トナルコトヲ得

第十條 文部大臣ハ學術及教化ニ關スル事項ニ付帝國學士院ニ諮詢スルコトヲ得

第十一條 帝國學士院ハ少クトモ毎年一回院務ニ關スル報告書ヲ文部大臣ニ提出スヘシ

第十二條 帝國學士院ニ院長一人幹事一人及部長二人ヲ置ク
院長及幹事ハ總會ニ於テ部長ハ部會ニ於テ會員中ヨリ之ヲ互選シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

院長幹事及部長ノ任期ハ三年トス

第十三條 院長ハ院務ヲ總理シ總會ニ於テ其ノ議長ト爲ル
院長事故アルトキハ幹事其ノ職務ヲ代理ス

幹事ハ院長ノ指揮ヲ受ケ院務ヲ掌理ス

部長ハ院長ノ指揮ヲ受ケ部務ヲ掌理シ部會ニ於テ其ノ議長ト爲ル

第十四條 院長幹事及部長ニハ手當ヲ支給スルコトヲ得

第十五條 滿六十歳以上ノ會員ニハ特ニ年金ヲ給スルコトヲ得

第十六條 帝國學士院ニ書記四人ヲ置キ文部省所屬ノ判任官ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ院長幹事部長ノ命ヲ受ケ庶務ニ従事ス

書記ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

第十七條 學術上ノ調査ノ爲會員中ニ於テ擔當者ヲ定メタルトキハ手當ヲ給スルコトヲ得

第十八條 帝國學士院ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ會則ヲ定ムルコトヲ得

附 則

第十九條 東京學士會院規程及東京學士會院規程補則ハ之ヲ廢止ス

第二十條 本令施行ノ際東京學士會院會員及客員タル者ハ本令ノ規定ニ依リ帝國學士院會員及客員タル者トス

第二十一條 東京學士會院規程第五條ニ依リテ年金ヲ受クル者ハ本令施行ノ後仍同額ノ年金ヲ受ク

第二十二條 本令ノ規定ニ依リ帝國學士院長ノ就任スルニ至ル迄ハ元東京學士會院會長ニ於テ幹事及部長ノ就任スルニ至ル迄ハ元東京學士會院幹事ニ於テ

其ノ職務ヲ行フヘシ

(參照)

勅令第二百六十四號 (明治二十三年十月二十五日官報)

東京學士會院規程

第一條 東京學士會院ハ學藝ノ品位ヲ高クシ以テ教化ノ神補ヲ謀ランカ爲ニ設クル所ニシテ文部大臣ノ管轄ニ

屬ス

第二條 東京學士會院ハ青徳碩學ノ中ヨリ選出セラレタル會員ヲ以テ組織ス其選出ノ方法及人員左ノ如シ

一 帝室ノ特選ニ依ル會員十五名

一 會員ノ推選ニ依ル會員二十五名

會員ノ推選ニ依ルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經ルヲ要ス

會員ハ終身トス

第三條 東京學士會院會員ハ各自專攻ノ學科ニ就キ論說ヲ述ヘ又學藝及教化ニ關スル事項ニ就キ報告スルモノトス

第四條 東京學士會院ハ學藝及教化ニ關スル事項ニ就キ文部大臣ヨリ諮問アルトキハ審議復申スルモノトス

又會員各自意見アルトキハ會院ニ於テ審議シ文部大臣ニ開陳スルコトヲ得

第五條 東京學士會院會員滿六十歳以上ノ者十名以内ヲ限り特ニ各年金三百圓ヲ賜フコトアルヘシ

第六條 東京學士會院ニ會長一人幹二人ヲ置ク

會長幹事ハ會員ノ互選ヲ以テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム其任期ハ各一年トス但再選セララルコトヲ得

第七條 會長ハ文部大臣ノ監督ヲ受ケ院務ヲ統理シ議事アルトキハ議長ノ任ニ當ルモノトス會長事故アルトキ

ハ幹事ノ内一人ヲ指定シテ其任務ヲ代理セシム

幹事ハ會長ヲ補佐シテ院務ヲ掌理ス

第八條 削除(二十六年勅令第五十九條ヲ以テ削除)
第九條 東京學士會院ニ書記二人ヲ置キ文部屬ヲ以テ之ニ兼補ス書記ハ會長及幹事ニ屬シテ庶務ニ從事ス
第十條 東京學士會院ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ會則ヲ設クルコトヲ得

勅令第十七號 (明治二十八年三月八日官報)
東京學士會院規程補則
外國ノ青徳碩學ニシテ特ニ帝國ニ對シ功勞アル者ハ會員ノ推選ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ客員ト爲スコトヲ得

第三 帝國學士院會則

明治三十九年七月一日議決同月四日文部大臣認可
同四十年十二月十二日改正議決同月十九日文部大臣認可
同四十二年十一月十二日追加議決同月廿二日文部大臣認可
大正五年三月十二日修正議決同月廿八日文部大臣認可
大正七年十月十二日修正議決同月十八日文部大臣認可

第一條 帝國學士院會員ノ定員ハ各部三十人トス
第二條 會員ヲ推選セントスルトキハ當該部會ニ於テ投票ヲ以テ先ツ候補者ヲ豫選シ其ノ最多數ヲ得タル者三人ヲ以テ候補者トス

候補者ニ缺員ヲ生シタル場合ニ於テハ補缺豫選ヲ行フ
候補者ニ付キ當該部會ニ於テ決選投票ヲ行ヒ外國ニ在リテ投票ヲ爲サ、ル者
ヲ除キタル部會員三分ノ二以上ノ多數ヲ得タル者ヲ當選者トシ總會ノ認可ヲ
經テ之ヲ會員ニ推選ス
前項ノ多數ヲ得タル者ナキトキハ更ニ決選投票ヲ行ヒ尙ホ當選者ヲ得ルコト
能ハサル場合ニ於テハ候補者ノ改選ヲ行フ
第三條 候補者ノ豫選及會員ノ推選ハ少クトモ三週間以前院長ヨリ之ヲ各會員
ニ通知ス
第四條 客員ヲ推舉セントスル者ハ當該部會員五人以上ノ贊成ヲ得テ部會ニ發
議スルコトヲ得
客員ノ選定ニ關シテハ第二條第三項及第三條ノ規定ヲ準用ス
第五條 院長幹事及部長ノ選舉ハ最多數ノ投票ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス
院長幹事及部長ハ六月ニ之ヲ選舉シ七月ニ至テ就任ス但シ六月ニ選舉ヲ行フ
コト能ハサルトキハ選次之ヲ繰延フルコトヲ得此場合ニ於テハ後任者ノ就任

スルニ至ル迄仍前任者ニ於テ其ノ職務ヲ取扱フ後任者ノ任期ハ其ノ就任ノ時
期ニ拘ラス七月ヨリ之ヲ起算ス
第六條 投票ハ總テ無記名トス
病氣其ノ他ノ事故ニ依リ出席スルコト能ハサル者ハ封書ヲ以テ投票スルコト
ヲ得
第七條 第二條第一項及第五條第一項ノ場合ニ於テ投票同數ナルトキハ年長者
ヲ以テ當選者トス
第八條 總會ハ院長部會ハ部長之ヲ召集ス
通常總會ハ毎月一回之ヲ開ク但シ八九兩月ハ開會セス
院長ノ見込ニ依リ又ハ會員五人以上ノ請求アルトキハ臨時總會ヲ開クコトヲ
得
第九條 總會及部會ハ在東京會員ノ三分之一以上ニ相當スル出席員アルニアラサ
レハ議決ヲ爲スコトヲ得ス
議決ハ出席員ノ過半數ニ依ル

第十條 總會及部會ノ議長ハ議決ノ數ニ加ハラス但シ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第十一條 帝國學士院規程第七條ノ論文ノ提出及報告ハ總會又ハ部會ニ於テ之ヲ爲スヘシ

帝國學士院會員ニ非サル者ノ論文又ハ報告ハ會員之ヲ紹介シテ總會又ハ部會ニ提出スルコトヲ得

論文及報告ハ之ヲ印刷シテ學者學會學校等ニ配付スルコトアルヘシ
論文及報告ノ會議ハ傍聽ヲ許スコトアルヘシ

第十二條 總會又ハ部會ノ議決ニ依リ講演ヲ公開スルコトアルヘシ

第十三條 部ハ總會ノ認可ヲ經テ部則ヲ定ムルコトヲ得

第十四條 部會ノ開會及議決ハ部長ヨリ之ヲ院長ニ報告スヘシ
第十五條 院長ハ毎年一回總會ニ於テ前一年間ノ院務ノ要項ヲ會員ニ報告スヘシ
部長ハ毎年一回前一年間ノ部務ノ要項ヲ院長ニ報告スヘシ

第十六條 部長事故アルトキハ會員ノ一人ニ其ノ職務ヲ委託スルコトヲ得

附則

第十七條 各部ニ於ケル會員ノ數二十五人ニ充ツルマテハ第二條及第三條ノ規定ニ依ラス總會ニ於テ會員ニ推選スヘキモノヲ選定ス

第十八條 院長幹事及部長ノ初回ノ選舉ハ明治三十九年七月ニ之ヲ行フ

會則第九條ニ關スル決議 (大正元年十月十二日總會議決)

帝國學士院會則第九條第一項ハ總會又ハ部會ヲ開キ諸般ノ報告ヲ受ケ及學術上ノ論文ノ提出アルヲ妨ケス

會則第十一條第二項ニ關スル決議 (大正五年三月十二日總會議決)

會則第十一條第二項ノ場合ニ於テハ本人ヲシテ論文又ハ報告ノ説明ヲ爲サシムルコトヲ得

(參照)

東京學士會院會則(明治二十三年十一月九日議決同月廿六日文部大臣認可)
第一條 會長幹事ノ選舉並ニ會員ノ推選ハ投票ヲ以テス投票同數ナレハ年長者ヲ取ル

帝國學士院會則關係決議(參照)東京學士會院會則

- 第二條 會長幹事ハ毎年十二月ニ於テ改選シ翌年一月ヨリ就職スルモノトス
- 第三條 會長幹事ハ發案討論ヲ爲スコト都テ會員ニ同シ
會長幹事議長ノ任ニ當ルトキハ可否ノ數ニ加ハラス但可否同數ノ場合ニ於テハ議長之ヲ決ス
- 第四條 會長幹事ノ選舉並ニ會員ノ推選ハ在京會員ノ投票ヲ以テス但缺席者モ之ニ加ヘルモノトス
- 第五條 會員ノ推選ハ先ツ在京會員ニテ投票シ其ノ投票最多數ノ三名ヲ取テ再ヒ投票シ最多數ヲ得タル者一人ヲ以テ當選者ト定ム但最多數ト雖投票數五點以下ナルトキハ之ヲ棄却シ更ニ改選ヲ爲ス
- 第六條 會員中右三名共ニ不適任ト認ムルカ若クハ其ノ學力人物等ヲ聞知セサルトキハ投票ヲ辭スル事ヲ得
- 第七條 投票ヲ辭シタル會員ノ數在京會員ノ三分ノ一以上ニ登ルトキハ選舉ヲ行ハス更ニ改選ヲ爲ス
- 第八條 當選者會員タルコトヲ辭スル者アルトキハ更ニ改選ヲナス
- 第九條 議事ノ可否ヲ決スルハ多數ニ依ル但在京會員二分一以上出席セサルトキハ可否ヲ決セス
- 第十條 會日ニハ講筵ヲ開キ公衆ノ參聽ヲ許スコトアルヘシ
- 第十一條 毎年一月ノ會日ニ於テ前會長前年ノ院務ノ要項ヲ報告ス
- 第十二條 會員ノ坐順變換ハ年二期(一月、七月)トシ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但新任者ハ該一期間末坐トス
- 第十三條 通常毎月(八九兩月ヲ除ク)第二日曜日ヲ以テ會日ト定ム但事宜ニヨリ會日ヲ變更シ或ハ臨時會ヲ開クコトアルヘシ
- 第十四條 演述ノ筆記並ニ院務ノ要項等ハ時々之ヲ刊行シテ會員ニ頒チ併セテ世ニ公ニス

第四 帝國學士院授賞規則

明治四十三年十月十二日議決
 同月廿六日文部大臣認可
 大正五年三月十二日修正議決
 同年四月十一日文部大臣認可

- 第一條 帝國學士院ハ學術ノ研究ヲ獎勵スル爲本則ノ定ムル所ニ依リ賞ヲ授ク
- 第二條 賞ハ特定ノ論文著書其ノ他特種ノ研究ニシテ其ノ成績卓絶ナルモノニ對シテ之ヲ授ク
- 第三條 賞ハ賞牌又ハ賞金トス但シ賞牌及賞金ハ併セテ之ヲ授クルコトヲ得
賞牌ノ制式ハ別ニ之ヲ定ム
- 第四條 賞ハ帝國學士院會員ニ非サル者ニ之ヲ授ク
- 第五條 賞ヲ授クルハ推薦又ハ募集ニ依ル
- 第六條 帝國學士院會員授賞ノ推薦ヲ爲サムトスルトキハ毎年十一月其ノ所屬ノ部會ニ其ノ提議ヲ爲スヘシ但シ十一月部會ヲ開カサルトキハ遞次繰延フルコトヲ得
- 前項ノ提議ニハ當該部會員三人以上ノ賛成アルコトヲ要ス

第七條 部會ニ於テ論文等ヲ審査ニ付スヘキモノト議決シタルトキハ審査委員
ヲ定ムヘシ

部會ニ於テ必要ト認ムルトキハ他ノ部ニ屬スル會員ニ審査委員ヲ囑託スルコ
トヲ得

第八條 審査委員ノ議決ハ多數決ニ依ル但シ審査委員ハ部會ニ於テ各其ノ意見
ヲ述フルコトヲ妨ケス

第九條 審査委員ハ書面ヲ以テ審査ノ經過及結果ヲ部會ニ報告スヘシ

第十條

部會ニ於ケル擬賞ノ議決ニハ投票總數三分ノ二以上ノ贊成アルコトヲ
要ス

第十一條 前條ノ規定ニ依リ擬賞ノ議決アリタルトキハ部長ハ審査報告書其ノ
他擬賞ニ關スル一切ノ事項ヲ總會ニ提出シ其ノ議決ヲ經ヘシ

第十二條 擬賞ノ議決ヲ爲スニハ部長又ハ院長ニ於テ少クトモ三週間以前會議
ノ目的ヲ會員ニ通知スヘシ

第十三條 擬賞ノ議決ニ付テハ投票ハ總テ無記名トス

恩賜賞牌



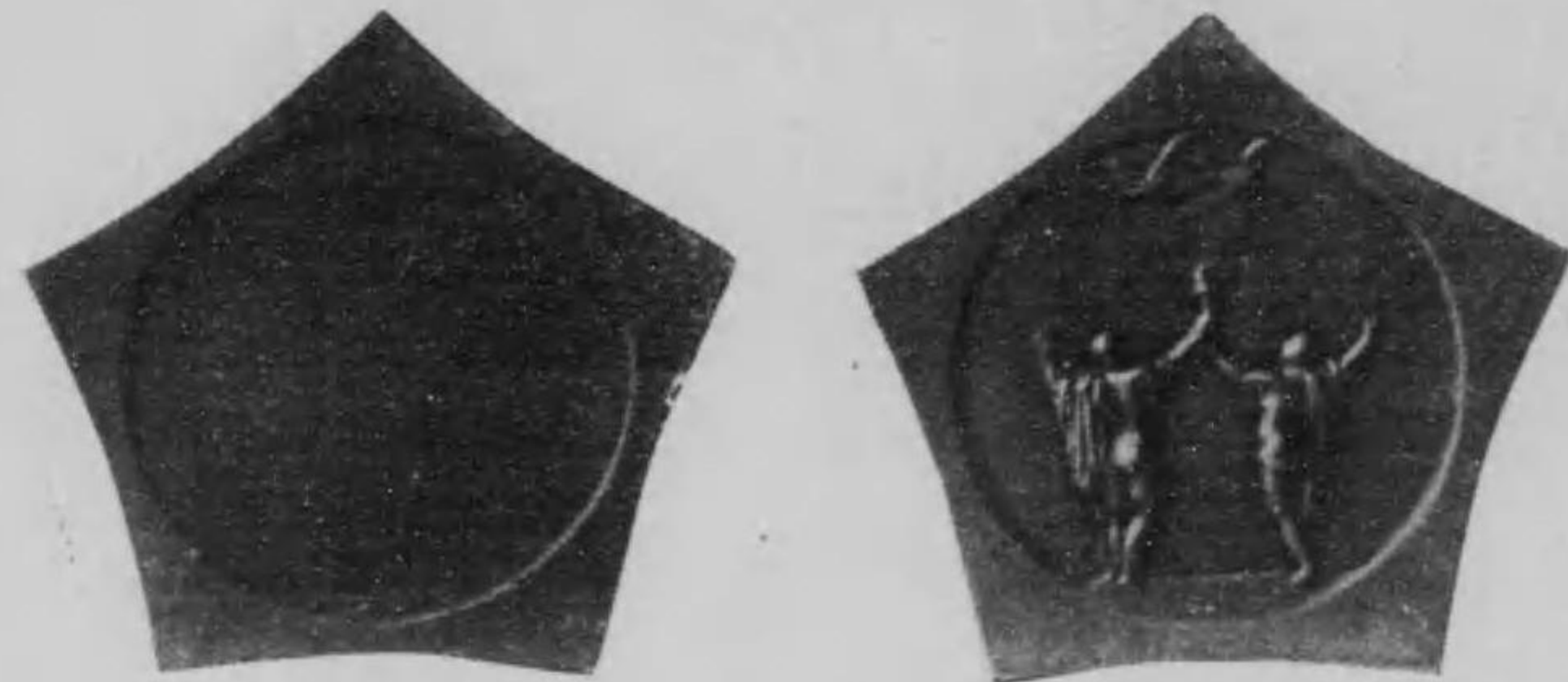
帝國學士院賞牌



縮五尺分之三

大坂毎日新聞東京日日新聞附寄

東宮御成婚記念賞牌



縮尺五分ノ三

賞記

帝國學士院ハ何誰ノ何々ニ對シ本院授賞規則第二條ニ依リ茲ニ大阪毎日新聞東京日日新聞附東宮御成婚記念賞牌及賞金ヲ授興ス

年 月 日 院 印

割印番號

院長位勳爵氏名花押

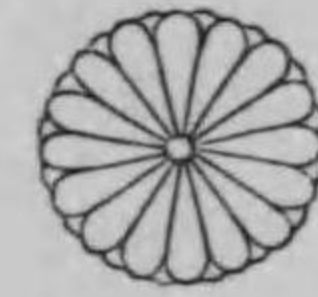
其三

其一

割印番號

年 月 日 院 印

院長位勳爵氏名花押



賞記

帝國學士院ハ何誰ノ何々ニ對シ本院授賞規則第二條ニ依リ茲ニ恩賜賞牌及賞金ヲ授興ス

其二

割印番號

年 月 日 院 印

院長位勳爵氏名花押

賞記

帝國學士院ハ何誰ノ何々ニ對シ本院授賞規則第二條ニ依リ茲ニ帝國學士院賞牌及賞金ヲ授興ス

病氣其ノ他ノ事故ニ因リ出席スルコト能ハサル者ハ封書ヲ以テ投票スルコトヲ得

第十四條 論文ヲ募集スル場合ニ於テハ其ノ都度部會ニ於テ募集ニ關スル事項ヲ定メ總會ノ議決ヲ經ヘシ

總會ノ議決アリタルトキハ帝國學士院募集ノ條件ヲ公示ス

第十五條 論文ノ募集了リタルトキハ部會ニ於テ審査委員ヲ定ムヘシ

第十六條 第七條第二項及第八條乃至第十三條ノ規定ハ論文募集ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 賞ヲ受ケタル者ハ受賞ノ目的タル論文又ハ著書ニ其ノ旨ヲ表示スルコトヲ得

第十八條 賞ヲ授クヘキ者授賞推薦ノ提議アリタル後又ハ論文ノ募集ニ應シタル後死亡シタル場合ニ於テハ帝國學士院ハ授賞ノ旨ヲ公示シ且其ノ者ニ授クヘキ賞ノ處分ヲ定ム

附 則

第六條ノ規定ニ依リ明治四十三年十一月ニ爲スヘキ授賞推薦ノ提議ハ同四十四年三月之ヲ爲スコトヲ得

第五 恩賜賞ニ關スル決議

- 一 皇室ノ御下賜金ヲ以テスル賞ハ之ヲ恩賜賞ト稱スルコト
- 二 恩賜賞ノ數ハ毎年第一部第二部各一個トシ場合ニ依リ二個ニ等分スルコトヲ得若シ其ノ年度内ニ授與シ了ラザルモノアルトキハ之ヲ遞次繰越シ授與スルモ差支ナキコト
- 三 恩賜賞ハ賞牌ニ賞記及賞金ヲ添ヘテ之ヲ授クルコト

明治四十四年二月十二日總會決議
明治四十四年四月十二日總會決議

第六 寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議

明治四十四年十一月十二日總會決議
同四十五年五月十二日總會修正決議
大正十二年三月十二日總會修正決議
同十三年十二月十二日總會修正決議

一 男爵三井八郎右衛門ヨリノ寄附金ヲ以テセル賞ハ第二部ニ於テ毎年其ノ數ヲ一個トシ男爵岩崎久彌ヨリノ寄附金ヲ以テセル賞ハ第一部第二部各隔年ニ一個トス但シ場合ニ依リテハ部ニ於テ之ヲ分チ貳個以上ノ賞トスルコトヲ妨ケス

大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學術獎勵資金ノ内ヲ以テセル賞ハ之ヲ大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念賞ト稱シ其ノ數ハ各部ヲ通シテ毎年四個トス

受賞者ナキトキハ之ニ對スル賞金ハ遞次翌年度ニ繰越シ之ヲ授與スルコトヲ得

賞ハ賞牌ニ賞記及賞金ヲ添ヘテ之ヲ授ク

二 寄附ノ條件ニ依リ寄附金ヨリ生スル利殖金ヲ賞又ハ研究費補助トシテ使用スルコトヲ得ル場合ニ於テ之ヲ賞トスルトキハ其ノ數及ヒ所屬ハ總會ニ於テ之ヲ定ム

前項ノ賞ニシテ記念ノ趣旨ヲ表明スルコトヲ要スル場合ニハ之ヲ某記念賞ト

寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議

稱シ賞金ニ賞記ヲ添ヘテ之ヲ授ク
三 二人以上共同ノ事業ニ對シテハ賞記ニ其ノ旨ヲ記シ各自ニ之ヲ授ク但シ賞金ハ分割セサルコトアルヘシ

第七 條件寄附金ニ關スル決議

(大正五年一月十二日總會議決)

學術研究ノ獎勵ヲ目的トスル寄附金ノ使途ニ關シテハ總會又ハ部會ハ必要ナル審査及決議ヲ爲スヘシ

第八 藤田男爵獎學費給與ニ關スル決議

(大正六年二月十二日總會議決)

一 男爵藤田平太郎寄附ノ獎學費ハ其ノ指定セラレタル用途ノ範圍ニ於テ有望ナル研究者ニ之ヲ與フ
二 獎學費ヲ受クヘキ者ノ選定ハ部會ノ決議ニ依ル部會ノ決議ハ部長之ヲ總會

一 報告スル
二 報告スル
三 獎學費ヲ受クヘキ者ノ數ハ各部ニ於テ毎年之ヲ定ム
獎會費ハ一人一箇年金三百圓トス但シ更ニ其ノ支給ヲ繼續スルコトヲ得
四 獎學費ヲ受ケタル者ノ氏名ハ寄附者ニ之ヲ報告ス

第九 末松子爵夫人寄附羅馬法獎勵資金ノ

使途ニ關スル決議

(大正七年七月十二日第一部々會議決)
(大正十年十二月十二日第一部々會議決)

一 子爵夫人末松生子寄附羅馬法獎勵資金ハ其ノ利殖金ノ一部ヲ以テ羅馬法律書籍ヲ購入シ獎學品トシ各官公私立大學中羅馬法ヲ教授セル各大學ノ大學院又ハ法科大學在學中ノ學生ニ與フルモノトス但シ適當ト認ムル他ノ學生ニ與フルコトアルヘシ
尙ホ場合ニ依リ相當ノ圖書館ヲ選定シ之ニ寄贈スルコトヲ得

- 利殖金ノ他ノ一部分ハ之ヲ積立テ羅馬法律書籍ノ出版費トシテ使用スヘキモノトス
- 一 獎學品ヲ受クヘキ者及書籍ヲ寄贈スヘキ圖書館ノ選定ハ第一部部长ノ銓考ニ依ル但シ銓考事項ハ之ヲ部會及總會ニ報告スヘシ
 - 二 獎學品ヲ受クヘキ者及書籍ヲ寄贈スヘキ圖書館ノ數並ニ出版費トシテ積立テ置クヘキ金額ハ相當ノ範圍ニ於テ毎年之ヲ定ム
 - 三 獎學品ヲ受ケタル者ノ氏名及書籍ヲ寄贈シタル圖書館ノ名ハ之ヲ寄附者ニ報告スヘシ

第十 松方公爵米壽祝賀紀念獎學資金ニ關スル決議

(大正十一年四月十二日總會議決
大正十二年三月十二日總會修正議決)

- 一 松方公爵米壽祝賀會寄附ノ獎學資金ハ寄附ノ條件ニ從ヒ元金ハ永ク保存シ

- テ之ヲ利殖シ其ノ利子ヲ獎學費ニ充ツ
- 二 獎學費ハ主トシテ財政經濟農業及漢學ニ關スル學科ノ研究費褒賞費講義費學生費出版費等ニ充テ其ノ他本院ニ於テ適當ト認ムル事業費ニ之ヲ使用ス
 - 三 獎學費使途ノ事項ニハ松方記念ノ稱ヲ冠ス
 - 四 獎學費ノ使途並ニ其ノ受領者ノ選定ハ當該部會ノ決議ニ依ル部會ノ決議ハ部長之ヲ總會ニ報告ス
 - 五 獎學費ヲ以テ施行シタル事項ハ毎年之ヲ松方公爵家ニ報告ス

第十一 大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚紀念學術獎勵資金ノ用途ニ關スル決議

(大正十二年十二月總會議決)

- 一 大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚紀念學術獎勵資金ノ内ヲ以テセル學術研究資金ニハ大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚紀念ノ稱ヲ冠

- シ該資金使途ノ事項ニハ之ニ依リタル旨ヲ表明スルコト
- 二 研究資金ヲ受ケヘキ者ノ選定ハ部會ノ議ヲ經テ總會ニ於テ之ヲ決定ス
- 三 研究資金ヲ受ケタル者ノ氏名及研究事項ハ毎年之ヲ大阪毎日新聞東京日日新聞兩社ニ報告ス

第十二 學術研究費補助ニ關スル決議

(明治四十年七月十二日總會議決
大正八年三月十二日總會修正議決
大正十二年三月十二日總會修正議決)

- 一 會員ニシテ學術研究費ノ補助ヲ要スルコトアルトキハ研究ノ目的ヲ明記シ之ニ要スル概算費目ヲ二月末日マテニ部長ニ申出ツヘシ
- 會員ニ非サル者ニ對スル學術研究費ノ補助ハ會員又ハ官公私立大學ノ總長若クハ學長ノ推薦ニ依ル
- 前項ノ推薦ハ院長ニ宛テ毎年二月末日迄ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス
- 二 部長ハ委員若干名ヲ指名シテ前項ノ申出及推薦ヲ審査セシムヘシ

- 部長ハ審査委員會ヲ召集シ其ノ議長ト爲ル
- 審査委員會ノ決議ハ三月末日マテニ部長之ヲ院長ニ報告スヘシ
- 三 學術研究費ノ各補助額ハ院長幹事及部長ノ役員會議ニ於テ案ヲ定メ四月ノ總會ニ於テ提出スヘシ但シ緊急ノ場合ニ於テハ院長ハ前二項ノ手續ニ依ラズ部長ノ申請ニ因リ役員會議ニ於テ決定シ次回ノ總會ニ於テ之ヲ報告スヘシ
- 四 學術研究費ノ補助ヲ受ケタル者ハ研究結了後直ニ其ノ成績ヲ報告スヘシ
- 研究數年ニ涉ル場合ニ於テハ毎年十二月末日マテニ研究進行ノ狀況ヲ記載セル報告書ヲ部長ニ提出スヘシ
- 五 補助ヲ受ケタル研究ノ成績報告書ニハ本院ヨリ研究費ノ補助ヲ受ケタル旨ヲ明記スルコトヲ要ス

第十三 學術研究費補助推薦ニ關スル決議

(大正五年一月十二日總會議決)

學術研究ノ獎勵ヲ目的トスル事業ニ關シ推薦ノ依頼ヲ承諾シタルトキハ總會又

ハ部會ハ委員ヲ選出シ必要ナル審査ヲ爲サシメ其ノ結果ニ依リ決議ヲ爲スヘシ

第十四 出版ニ關スル決議

（明治四十年七月十二日總會議決
同年十一月十二日總會修正議決
同四十四年十一月十二日總會修正議決）

- 一 毎年一回年報ヲ刊行シテ報告ヲ登載スヘシ
- 二 帝國學士院規程第七條第八條及帝國學士院會則第十一條第二項第十二條ニ依ル論文報告講演等ハ帝國學士院紀事又ハ別冊トシテ之ヲ刊行スルコトヲ得
- 三 圖書又ハ論文ヲ編纂校訂翻譯若クハ謄寫セシメ又ハ之ヲ出版スルコトヲ得
- 四 第二項ニ掲ケタル論文報告及講演ヲ帝國學士院紀事又ハ別冊以外ニ掲載セシトスルトキハ院長ノ許可ヲ經ルコトヲ要ス

第十五 帝國學士院紀事及別冊ノ出版ニ關

スル決議

（明治四十年十二月十二日總會議決
同四十四年十二月十二日總會修正議決）

- 一 帝國學士院紀事ハ集會ノ錄事及會員ノ提出セル論文報告書等ヲ登載ス
- 二 長編ノ論文報告書等ハ別冊トシテ隨時刊行シ其ノ概要ヲ紀事ニ登載ス
- 三 會員ニ非サル者ノ論文報告書等ニシテ會員ノ紹介ニ依リ提出セラレタルトキハ之ヲ紀事又ハ別冊ニ掲クルコトアルヘシ
- 四 既ニ他ニ出版セル論文報告書等ハ之ヲ紀事又ハ別冊ニ登載セス
但シ其ノ概要ヲ抄録スルハ此限ニアラス
- 五 出版委員五名ヲ置キ出版ニ關スル事務ヲ委任ス
出版委員ハ論文報告書等ノ取捨節略ニ關シ疑アルトキハ之ヲ總會又ハ部會ニ提出スルコトヲ得
- 六 出版委員ハ部ニ於テ各二名ヲ選出シ幹事ヲ以テ委員長トス
部選出ノ委員ハ其ノ任期ヲ三箇年トス

第十六 學術獎勵金

皇室御下賜金ノ一

右ハ皇室ヨリ學術研究御獎勵ノ思召ヲ以テ明治四十三年ヨリ十箇年間年々金貳千圓ヲ下賜セラレ引續キ大正九年以降十箇年間年々金貳千圓ヲ下賜セラレタルモノニシテ賞典資ニ充ツルモノトス

皇室御下賜金ノ二

右ハ大正九年一月同十年一月同十一年一月同十二年一月皇室ヨリ學術研究御獎勵ノ思召ヲ以テ金壹萬圓ツ、ヲ下賜セラレ更ニ大正十三年一月金壹萬圓ヲ下賜セラレタルモノニシテ學術研究ノ資ニ充ツルモノトス

男爵三井八郎右衛門寄附金

右ハ男爵三井八郎右衛門ヨリ學術研究獎勵ノ爲明治四十四年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹千圓宛合計金壹萬圓更ニ大正十年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹千圓宛合計金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ第二部ニ屬スル賞典費ニ充ツルモノトス

三菱合資會社寄附金

右ハ三菱合資會社々々長男爵岩崎久彌ヨリ學術研究獎勵ノ爲明治四十四年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓更ニ同會社々々長男爵岩崎小彌太

ヨリ大正十年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ賞典資ニ充ツルモノトス

工學博士藥學博士高峰讓吉寄附金

右ハ大正元年工學博士藥學博士高峰讓吉ヨリ學術研究獎勵ノ爲金五千圓ヲ寄附シ其ノ使用方法ハ本院ニ一任セルモノニシテ元金ハ之ヲ保存シ之ヨリ生スル利殖金ヲ一般學術研究費補助ニ充ツ

男爵住友吉左衛門寄附金

右ハ男爵住友吉左衛門ヨリ學術研究獎勵ノ爲大正元年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓更ニ大正十二年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附シ其ノ使用方法ハ本院ニ一任セルモノニシテ之ヲ一般學術研究費補助ニ充ツ

男爵古河虎之助寄附金

右ハ男爵古河虎之助ヨリ學術研究獎勵ノ爲大正二年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓更ニ大正十二年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹千圓ツ、

合計金壹萬圓ヲ寄附シ其ノ使用方法ハ本院ニ一任セルモノニシテ之ヲ一般學
寄研究費補助ニ充ツ
男爵藤田平太郎寄附金

右ハ大正四年男爵藤田平太郎ヨリ學術獎勵ノ爲メ金貳萬貳千圓ヲ寄附セルモ
ノニシテ寄附ノ條件ニ依リ金貳千圓ヲ羅馬法學書出版費補助トシテ之ヲ使用
シ金壹萬圓ヲ羅馬法學獎學資金トシ金壹萬圓ヲ探鑛冶金學及關係學科獎學資
金トシ各獎學資金ヨリ生スル利殖金ヲ東京帝國大學及京都帝國大學ノ大學院
又ハ分科大學在學中ノ學生ノ獎學費ニ充ツ

三井合名會社寄附金

右ハ大正五年三井合名會社々長男爵三井八郎右衛門ヨリ左ノ通り出版費トシ
テ金參千圓ヲ寄附セルモノナリ
金壹千圓 大日本數學史ノ増補出版費

山下龜三郎寄附金ノ一

伊能忠敬測地事蹟調查事項出版費

右ハ山下龜三郎ヨリ學術研究獎勵ノ爲大正五年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹千
圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ船舶航海其ノ他之ニ關スル學術研
究ノ資ニ充ツルモノトス
但シ右金額ノ納付方法ハ使途ノ狀況ニ依リ隨時之ヲ變更スルコトヲ得ルモノ
トス

山下龜三郎寄附金ノ二

右ハ山下龜三郎ヨリ學術獎勵ノ爲大正十二年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹千圓
ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ國際關係ノ學事費ニ之ヲ使用スルモ
ノトス

故桂公爵記念事業會寄附金

右ハ大正六年故桂公爵記念事業會總代男爵澁澤榮一ヨリ學術研究獎勵ノ爲金
貳萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

元金ハ桂學術獎勵基金トシテ保存シ之ヨリ生スル利殖金ノ全部又ハ一部ヲ一
學術研究ニ依リ社會ニ多大ノ貢獻ヲ爲シタリト認メラル、者ニ賞トシテ與フ

ルカ又ハ(二)學術研究費補助トシテ之ヲ使用シ(三)孰レモ桂學術獎勵基金ニ據リタルコトヲ表明スルコト但シ場合ニ依リ(一)若クハ(二)ヲ選行シ又ハ二者ヲ併行スルハ帝國學士院ノ任意タルヘキコト

子爵夫人末松生子寄附金
右ハ大正七年子爵夫人末松生子ヨリ羅馬法獎勵資金トシテ有價證券額面金五千百圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ
資金ノ利殖金ヲ以テ毎年若干宛羅馬法律書ヲ購入シ適宜ノ方法ニ依リ可然學生ニ之ヲ分與シ又ハ場合ニ依リ相等ノ圖書館ヲ選定シテ之ニ寄贈スヘキコト尙ホ必要ノ場合ニハ右法律書ノ印刷費ニ充ツルコト

松方公爵米壽祝賀會寄附金ノ一
右ハ大正十一年松方公爵米壽祝賀會發起人總代男爵阪谷芳郎平山成信ヨリ學術研究獎勵ノ爲松方公爵米壽祝賀記念獎學資金トシテ金十八萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ
(一)本資金ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ利殖スルコト(二)元金ハ永ク之ヲ保存シ其イ

利子ノミヲ使用スルコト(三)利子ハ主トシテ財政經濟農業及漢學ニ關スル研究ノ補助褒賞等ニ使用スルコト(四)前項以外タリト雖モ帝國學士院ニ於テ適當ト認ムル事業ニ利子ヲ使用スルハ妨ケナキコト(五)利子ヲ以テ施行シタル事項ハ毎年之ヲ松方公爵家ニ報告スルコト

松方公爵米壽祝賀會寄附金ノ二
右ハ大正十二年四月松方公爵米壽祝賀會發起人總代平山成信ヨリ金五千四百五拾四圓ヲ寄附セルモノニシテ松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ヨリ生スル利子ニ加ヘ獎學ノ目的ニ使用スルモノトス

松方公爵米壽祝賀會寄附金ノ三
右ハ大正十二年五月松方公爵米壽祝賀會殘務整理委員男爵阪谷芳郎ヨリ金五百六拾圓ヲ寄附セルモノニシテ松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ノ中ヘ加ヘ使用スルモノトス
財團法人原田積善會寄附金
右ハ財團法人原田積善會理事原田二郎ヨリ學術研究獎勵ノ爲大正十二年ヨリ

向フ壹百箇年間毎年金壹萬圓四月及九月ノ兩期ニ分納ツ、合計金壹百萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

(一)金壹萬圓ノ内金貳千圓ハ之ヲ原田二郎獎學基金トシテ積立テ適當ノ方法ヲ以テ永遠ニ利殖スルコト但シ五十年後ニアリテハ右基金ヨリ生スル利子ヲ帝國學士院ニ於テ適宜使用スルモ妨ナキコト(二)金壹萬圓ノ内金八千圓ハ毎年獎學ノ爲使用スルコト、ナシ其方法ハ總テ帝國學士院ニ一任スルコト(三)本寄附金ニヨリ施行シタル事項ハ毎年之ヲ原田積善會ヘ報告スルコト

高峰保全株式會社寄附金

右ハ高峰保全株式會社取締役鹽原又策ヨリ學術研究獎勵ノ爲賞又ハ研究資金トシテ大正十二年ヨリ向フ五箇年間毎年金五千圓(一月及七月ノ二期ニ分納ツ)、合計金二萬五千圓ヲ寄附セルモノニシテ其ノ利殖金ヲ學術研究ノ賞又ハ資トシテ使用スルモノトス

三共株式會社寄附金

右ハ三共株式會社取締役鹽原又策ヨリ前記高峰保全株式會社寄附ニ係ル基金

ノ利子ヲ大正十三年ヨリ金壹千圓ツ、使用シ得ル爲其ノ不足補充ノ目的ヲ以テ大正十二年ヨリ三箇年ニ涉リ金貳千圓ヲ寄附セルモノナリ

大阪毎日新聞社長本山彦一寄附金

右ハ大阪毎日新聞社長本山彦一ヨリ學術獎勵ノ爲東宮御成婚記念學術獎勵資金トシテ大正十三年ヨリ向フ十箇年間毎年金壹萬圓ツ、合計金拾萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

(一)毎年金壹萬圓ノ中金四千圓ハ賞金トシ金六千圓ハ研究資金トシテ之ヲ使用セラレタキコト(二)賞ハ大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念賞ト稱シ賞牌及賞記ト共ニ金壹千圓宛四人ニ之ヲ授與セラレタキコト但シ賞牌ノ制式ハ貴院ニ一任スルコト、シ其ノ作製ニ要スル費用ハ別ニ本社ヨリ之ヲ貴院ニ納付ス(三)授賞者ナキトキハ賞金ノ一部又ハ全部ヲ遞次翌年ニ繰越シテ使用セラル、モ妨ケナキコト(四)研究資金ノ使用方法ハ之ヲ貴院ニ一任スルモ該資金使途ノ事項ニハ大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念ノ稱ヲ冠セラレタキコト

第十七 役員

同	大正六年十月二十日	院長	法學博士男爵 穂積 陳重
同	同 七年七月一日	幹事	理學博士 櫻井 錠二
同	同 七年七月一日	第一部長	文學博士 井上 哲次郎
同	同 七年七月一日	第二部長	理學博士 藤澤利喜太郎
同	同 七年七月一日	第一部長	醫學博士 三宅 秀
同	同 七年七月一日	第二部長	文學博士 井上 哲次郎
同	同 七年七月一日	第二部長	醫學博士 大澤 謙二

第十八 會員

同	明治三十九年六月十二日	第一部	法學博士男爵 穂積 陳重
同		第二部	理學博士 櫻井 錠二
同		第一部	法學博士 宮崎道三郎
同		第二部	理學博士 小藤文次郎
同		第一部	文學博士 坪井九馬三
同		第二部	醫學博士 小金井良精
同		第一部	醫學博士 長井 長義
同	同 年九月十四日	第二部	文學博士 南條 文雄
同		第一部	工學博士男爵 古市 公威
同		第二部	理學博士 田中 館愛橘
同		第一部	醫學博士男爵 北里 柴三郎
同		第二部	醫學博士 富井 政章
同		第一部	法學博士 土方 寧
同		第二部	理學博士 藤澤利喜太郎

明治三十九年九月十四日

同

同

同年十月二十四日

同 四十一年三月三十一日

同 同年五月廿六日

同 同年八月四日

同 同年十一月廿八日

同

明治四十二年六月廿二日

同 同年十一月三十日

明治四十四年一月十一日

同 同年三月廿八日

同 同年四月廿八日

第二部	醫學博士	三浦謹之助
第二部	理學博士	長岡半太郎
第一部	法學博士	岡野敬次郎
第一部	法學博士	一木喜徳郎
第一部	文學博士	上田萬年
第二部	理學博士	松村任三
第一部	文學博士	三上參次
第二部	理學博士	中村精男
第二部	法學博士	金井延
第一部	醫學博士	佐藤三吉
第二部	理學博士	平山信
第一部	法學博士	美濃部達吉
第一部	文學博士	大槻文彦
第二部	理學博士	石川千代松

明治四十五年二月廿七日

大正二年五月廿九日

大正四年三月廿四日

大正六年六月廿二日

同 同年十二月廿六日

大正七年三月廿五日

同

同 同年六月廿五日

同

大正八年二月廿八日

同 同年三月廿六日

同 同年四月廿九日

同 同年十二月五日

大正九年五月一日

第一部	文學博士	高楠順次郎
第一部	法學博士	山崎覺次郎
第一部	文學博士	芳賀矢一
第一部	文學博士	服部宇之吉
第一部	法學博士	小野塚喜平次
第一部	文學博士	村上專精
第二部	醫學博士	伊藤隼三
第二部	理學博士	水野敏之丞
第一部	法學博士	織田萬
第二部	理學博士	池田菊苗
第一部	文學博士	白鳥庫吉
第二部	醫學博士	山極勝三郎
第一部	文學博士	松本文三郎
第一部	法學博士	春木一郎

大正九年十月二十七日	第二部	理學博士	三好學
同年十一月廿九日	第一部	法學博士	立作太郎
同年十二月二十七日	第二部	醫學博士	荒木寅三郎
大正十年一月廿四日	第一部	文學博士	松本亦太郎
大正十一年四月七日	第二部	理學博士	佐々木忠次郎
同	第一部	法學博士	福田德三
大正十一年十二月廿六日	第二部	理學博士	本多光太郎
大正十二年三月十日	第二部	工學博士	高松豐吉
大正十二年五月三日	第二部	醫學博士	宮入慶之助
大正十二年十一月十四日	第二部	醫學博士	野口英世
大正十二年十一月廿八日	第一部	文學博士	姉崎正治

第十九 事務職員

書記

明治四十年六月十日

文部屬 佐原茂一

囑託

明治四十二年十二月八日

金坂周次

大正十一年十二月十五日

森川淳契

大正十二年十二月八日

南雲由松

第二十一 事業擔當會員囑託員及出版委員

和算史調査

大正六年十月十二日

擔當會員

理學博士 藤澤利喜太郎

大正十二年十一月廿一日

猪俣一三

伊能忠敬測地事蹟調査

明治四十一年七月十二日

擔當會員

理學博士 長岡半太郎

事務職員 事業擔當會員囑託員及出版委員

燃藜室記述調査

明治四十二年一月十二日 擔當會員 文學博士 坪井九馬三
同年一月廿三日 囑託 文學博士 今西龍

羅馬法ニ關スル書籍翻譯出版

明治四十二年一月十二日 擔當會員 法學博士 宮崎道三郎

帝室制度ノ歴史的研究

大正九年三月十六日 擔當會員 主任法學博士 岡野敬次郎
同 文學博士 三上參次
同 法學博士 美濃部達吉
大正十一年二月廿五日 同 文學博士 服部宇之吉
大正九年五月廿五日 囑託員 文學博士 和田英松
大正十一年二月十六日 同 文學博士 和田英松
大正十二年四月廿六日 同 龍諸橋轍次 肅

大正九年五月廿五日 同 文學博士 山本信哉
同年九月六日 同 田邊勝哉
同年十月五日 同 淺野長武
同 櫻井秀

我邦ト歐洲諸國トノ交通史料ノ蒐集及研究

大正十年五月 日 擔當會員 文學博士 村上直次郎
大正十二年二月十三日 囑託員 文學博士 村上直次郎

帝國學士院紀事及別冊ノ出版委員

大正二年七月十二日 委員長 理學博士 櫻井錠二
明治四十四年六月十二日 委員 醫學博士 三浦謹之助
大正三年六月十二日 同 理學博士 長岡半太郎
大正七年六月十二日 同 法學博士 山崎覺次郎
大正十年六月十二日 同

大正十年六月十二日

同

文學博士 松本亦太郎

第二十一 論文

提出年月日	題 目	提 出 者
明治四年四月十二日	本邦一部ノ重力ト地質構造ニ付	長岡半太郎
七月十二日	吾カ國體ト基督敎	×加藤 弘之
十月十二日	注意ノ練習ニ就テ	×元良 勇次郎
三月十二日	鼠毒症病原ニ就テ	×緒方 正規
明治四年三月十二日	「ゼーマン」效果ノ研究第一回報告	長岡半太郎
十月十二日	「ゼーマン」效果ノ研究ニ關スル第二回報告	長岡半太郎
三月十二日	地震ノ度数ト等壓線ノ勾配トノ關係ニ就テ	寺田 寅彦
同 日	日本薔薇科植物篇ニ就テ	

(田中館愛橘紹介講述)

(松村任三紹介講述)

明治四年一月十二日	注意練習實驗ノ報告第二回	×元良 勇次郎
五月十二日	地磁氣ノ細微變動ニ就テ	田中館愛橘
六月十二日	水銀スベクトル線ノ複雑ナル構造ニ就キ	長岡半太郎
六月十二日	メツシナ大地震ノ概況	×大森 房吉
七月十二日	伊能忠敬遺物ニ就キ	長岡半太郎
明治四年七月十二日	恙蟲病々原ニ就テ	×緒方 正規
明治四年一月十二日	熱化學的研究第一報告等溫測熱法	×廣 部 一
六月十二日	神經ノ電氣刺戟ニ關スルネルンストノ論	三浦 謹之助
七月十二日	胎兒ニ關スル研究	×三浦 守治
明治四年二月十二日	由井正雪事件ト徳川幕府ノ養子制度	穂積 陳重
	(第一部論文集第一號ニ掲載)	

明治四十五年四月十二日	「スペクトル」線ノ光ノ強弱ヲ測定スル方法ニ就キ (長岡半太郎紹介講述)	長岡半太郎
同日	交又「スペクトル」ニ依リ陪線ノ眞偽ヲ判別スル方法 (長岡半太郎紹介講述)	高嶺俊夫
六月十二日	和算史ノ一節 (長岡半太郎紹介講述)	長岡半太郎
七月五日	恙蟲病々原絲狀菌ニ就テ 「エシエロン」分光鏡ト「ルムメル」板ト比較ノ研究	高嶺俊夫
大正元年十二月二日	間重新ノ橢圓起原ニ就テ(紀事第壹卷第貳掲載)	長岡半太郎
大正二年一月十二日	腸胃ノ運動 鼠咬症ノ病原並ニ其治療ニ就テ 恙蟲病原ノ細菌並ニ其豫防ニ就テ 噴火性微動ニ就テ	×菊池大麓 ×三浦守治 ×緒方正規 ×緒方正規 ×大森房吉

五月十二日	「エツクス」線結晶體通過ニ就キ (長岡半太郎紹介講述)	寺田寅彦
六月十二日	鐵磁性物體ノ高溫度ニ於ケル發熱現象ト其磁性變化 (長岡半太郎紹介講述)	本多光太郎
大正二年十二月十二日	諸種干涉計ノ交又ニ依テ生スル「スペクトル」ト其利用ニ就キ (長岡半太郎紹介講述)	長岡半太郎
大正三年一月十二日	代數的「キヨルベル」ニ於ケル「コンダクタ」ト「數ノ「クラス」ニ就キ (藤澤利喜太郎紹介講述)	高嶺俊夫
大正三年一月十二日	胎兒及初生兒ノ體溫 「アステラプテリジヤ」しびれえひノ放電 (長岡半太郎紹介講述)	×三浦守治
二月十二日	櫻島爆發ノ概況 (長岡半太郎紹介講述)	藤致篤
三月十二日	X線ニ依リ金屬其他ノ物質ノ結晶的構造	×大森房吉

大正三年五月十二日	ノ研究 〔ネオン〕光線ノ「ゼー」マン効果 (長岡半太郎紹介講述)	西川正治
十月十二日	地球放電	高田幸五郎
十月十二日	責任論	山中館愛橘
大正四年一月十二日	蛙族ハ何故横隔膜ヲ有セサル乎	×加藤弘之
六月十二日	恙蟲病々原體ニ就テ	×三浦守治
	故矢頭良一發明早繰字引ニツキテ附計算器並ニ瓦斯タルビン]考案ニツキテ	×緒方正規
大正五年一月十二日	「スベクトル」線間ノ細微ナル共同關係ニ就キ	×末松謙澄
五月十二日	列車ノ抵抗ニ就キ (古市公威紹介)	長岡半太郎
十月十二日	地磁氣ノ急激ナル周期的變化ニ就キ (長岡半太郎紹介)	田邊朔郎
		寺田寅彦

十月十二日	植物界ニ於ケル「フラヴォン」體ノ分布並ニ生理的意義 (櫻井錠二紹介)	柴田桂太
十月十二日	木材腐朽菌ト古代建築ニ於ケル柱ノ穴ニ就キ (古市公威紹介)	川村清一
大正六年二月十二日	長慶天皇ノ御歴代ニ加ヘ給フヘキ證據ニ就キ (三上參次紹介)	×八代國治
十月十二日	代數的平均ニ就テ	藤澤利喜太郎
大正七年一月十二日	植物界ニ於ケル「フラヴォン」體ノ分布並ニ生理的意義ニ關スル研究第二報告 (櫻井錠二紹介)	柴田桂太
六月十二日	痛種ノ人工的發生實驗成績ニ就テ (三浦謹之助紹介)	山極勝三郎
十月十二日	戰時ニ於ケル米國學士院活動ノ狀況 (古市公威紹介)	市川厚一郎
		滋澤元治

大正八年三月廿二日

四月十二日

船舶ノ動搖ニ關スル實驗 (吉市公威紹介)

諱ニ關スル疑

櫻島附近及本州中部ニ於ケル地盤ノ高低

變動

六月十二日

無線式電信電話

(吉市公威紹介)

國語々原若干條

十月十一日

殷墟ヨリ發掘セラレタル龜甲獸骨文字

(服部宇之吉紹介)

大正八年七月廿日

波濤上ニ於ケル動搖ノ爲誘起セラルル船

舶ノ旋回運動

(櫻井鏡二紹介)

大正九年二月廿日

黑龍江流域ニ於ケル人類學的調査

(井上哲次郎紹介)

四月十二日

北海道有珠山地方地盤垂直ノ變動

六月十二日

新ニ發見セラレタル親鸞ノ眞蹟

末廣 恭二

穗積 陳重

×大森 房吉

×鳥瀨 右一

大槻 文彦

×林 泰輔

末廣 恭二

鳥居 龍藏

×大森 房吉

鳥居 龍藏

鳥居 龍藏

鳥居 龍藏

十一月廿日

論文ノ起原

(三上參次紹介)

大正十年二月廿日

豆滿江畔ノ有史以前ニ就テ

(服部宇之吉紹介)

三月十二日

山西省道教石窟ノ發見及全眞教

(井上哲次郎紹介)

四月十二日

日本石器時代ノ齒ニ就テ

六月十二日

船舶ノ動搖ニ關スル研究 (吉市公威紹介)

七月十二日

支那古曆ノ淵源 (井上哲次郎紹介)

十月十二日

支那古代ニ於ケル天文学ノ發達

(長岡半太郎紹介)

十一月廿日

北樺太及黑龍江下流ノ民族ニ就テ

(井上哲次郎紹介)

十二月廿日

アインシュタイン氏相對性原理ノ梗概

辻 善之助

白鳥 庫吉

鳥居 龍藏

常盤 大定

小金井 良精

末廣 恭二

飯島 忠夫

新城 新藏

新城 新藏

鳥居 龍藏

鳥居 龍藏

長岡半太郎

大正十一年一月十二日	「エスベラント」及「エスベラント」主義ノ梗概 (中村精男紹介)	小坂 猶二
四月十二日	五辻宮ニ關スル新研究 (三上參次紹介)	平 泉 澄
六月十二日	船舶ノ動搖ニ關スル研究及船舶ノ振動ニ就テ (又井口在屋紹介)	末 廣 恭二
大正十一年三月十二日	痲腫ニ關スル研究成績報告 今回ノ大震ニ就テ (中村精男紹介)	山極勝三郎
十月十四日	比例代表法ニ就テ	今 村 明 恒
大正十一年一月十二日	比例代表ノ一新案ノ豫備報告 比例代表ノ一新案ノ豫備報告(前回ノ續キ)	美濃部 達吉
二月十二日	同位元素(Isotopes)ノ原子核(Atomkern)	藤澤 利喜太郎
大正十一年三月十二日	振動	藤澤 利喜太郎
四月十二日	有史以前南北朝鮮ノ關係ニ就テ	長岡半太郎

鳥居 龍藏

第二十二 出版

- 假名遣沿革史料 明治四十二年三月發行 全 壹 冊
- 帝國學士院紀事(英文) 明治四十五年三月發行 第一卷第壹
- 帝國學士院紀事(英文) 大正二年三月發行 第一卷第貳
- 菊池大麓論文 間重新ノ橢圓起原ニ就テ 大正二年六月發行 第一 號
- 帝國學士院第一部論文(邦文) 大正二年六月發行 第一卷第參
- 穗積陳重著 由井正雪事件ト徳川幕府ノ養子法 大正二年十一月發行 第一卷第壹
- 帝國學士院第二部メモアル(英文) 大正二年十一月發行 第一卷第壹
- 長岡半太郎及高嶺俊夫論文 階段格子及ルムメル板ヲ用ヒテ調査シタル水銀線ノ構造

出版

- ユ帝欽定羅馬法學提要末松謙澄翻譯 大正二年十二月發行 全壹冊
- 帝國學士院紀要英文 大正三年十二月發行 第一卷第四
- 竹內端三論文 代數的キヨルベルニ於ケルコングルエント數ノクラスニ就キ
- ウルピアイヌス羅馬法範末松謙澄翻譯 大正四年三月發行 全壹冊
- ガイーウス羅馬法解説末松謙澄翻譯 大正四年三月發行 全壹冊
- 伊能忠敬長岡半太郎監修大谷亮吉編著 大正六年三月發行 全壹冊
- 和算ノ方陣問題菊池大麓監修三土義夫編著大正六年三月發行全壹冊
- 諸外國學士院ノ組織及授賞制(藤澤利喜太郎編) 明治三十三年印刷大正七年三月再版發行 全壹冊
- 増修日本數學史(遠藤利貞遺著) 大正七年九月發行 全壹冊
- 帝國學士院紀事(英文) 大正七年十月發行 第一卷第五
- 藤澤利喜太郎論文 代數的平均ニ就テ
- 大谷亮吉編著 伊能忠敬ノ傳記並ニ其事業概説

○帝國學士院第一部論文集(邦文) 大正八年二月發行 第二號
 穂積陳重著 諱ニ關スル疑

第二十三 受賞者

明治四十四年七月五日

恩賜賞

第一號(地軸變動ノ研究特ニZ項ノ發見ニ對シ)

理學博士 木村 榮

明治四十五年五月十二日

恩賜賞

第二號(法學博士文學博士有賀長雄著佛文日清戰役國際法論及佛文日露陸戰國際法論ニ對シ)

×法學博士 有賀 長雄

第三號(富士川游著日本醫學史ニ對シ)

富士川 游

第四號(公孫樹ノ精蟲ノ發見ニ對シ)

平瀬 作五郎

出版 受賞者

第五號 (蘇鐵ノ精蟲ノ發見ニ對シ)

理學博士 池野成一郎

帝國學士院賞

第一號 (アドレナリンノ發見ニ對シ)

工學博士 高峰讓吉

大正二年七月五日

恩賜賞

第六號 (村岡良弼著續日本後紀纂誌ニ對シ)

工學博士 高 峰 讓 吉

第七號 (腦神經起首ノ研究ニ對シ)

醫學博士 上 坂 熊 勝

帝國學士院賞

第二號 (外部寄生性吸蟲類ノ研究ニ對シ)

理學博士 五 島 清 太 郎

第三號 (軍艦ノ設計ニ對シ)

近 藤 基 樹

大正三年七月五日

恩賜賞

第八號 (哺乳動物ノ心臟ニ於ケル刺戟傳導筋系統ノ研究ニ對シ)

醫學博士 田 原 淳

帝國學士院賞

第四號 (竹添進一郎著左氏會箋ニ對シ)

醫學博士 田 原 淳

第五號 (力學研究ニ對シ)

理學博士 日下部四郎太

大正四年七月五日

恩賜賞

第九號 (スピロヘータパリの研究ニ對シ)

醫學博士 野 口 英 世

帝國學士院賞

第六號 (金允植著雲養集ニ對シ)

子爵 金 允 植

第七號 (靈ノ遺傳研究ニ對シ)

農學博士 外 山 龜 太 郎

大正五年七月二日

恩賜賞

第十號 (假名ニ關スル研究ニ對シ)

文學博士 大 矢 透

第十一號 (文學博士林泰輔著周公卜其時代ニ對シ)

文學博士 林 泰 輔

第十二號 (黃疸出血性「スピロヘータ」病ニ關スル共同研究ニ對シ)

醫學博士 井 田 戸 龍 泰 吉

第十三號 (共同研究ニ對シ)

醫學博士 井 田 戸 龍 泰 吉

帝國學士院賞

第八號 (無線電信電話ニ使用スル電氣振動間隙ニ對シ)

工學博士 島 井 瀧 右 一

第九號 (無線電信電話ニ使用スル電氣振動間隙ニ對シ)

工學博士 島 井 瀧 右 一

第十號 (無線電信電話ニ使用スル電氣振動間隙ニ對シ)

工學博士 島 井 瀧 右 一

受賞者

第十二號 鐵ニ關スル研究ニ對シ

大正六年七月一日

恩賜賞

第十四號 文學博士佐々木信綱著日本歌學史及和歌史ノ研究ニ對シ

第十五號 「ラウエ」映畫ノ實驗方法及其說明ニ關スル研究ニ對シ

帝國學士院賞

第十三號 漆ノ主成分ニ關スル研究ニ對シ

第十四號 「スピネル」ノ原子配置并ニ歪ラ受ケタル物體ノ「レントゲン」線檢査ニ關スル研究ニ對シ

大正七年五月十二日

恩賜賞

第十六號 和田英松輯辰記集及同人著皇室御撰解題ニ對シ

第十七號 木村泰賢著印度六派哲學ニ對シ

八八

理學博士 本多光太郎

文學博士 佐々木信綱

理學博士 寺田寅彦

理學博士 眞島利行

理學博士 西川正治

和 田 英 松

本 村 泰 賢

第十八號 植物界ニ於ケル「ラヴオン」體ノ研究ニ對シ

帝國學士院賞

第十五號 日本住血吸蟲病ノ研究ニ對シ

第十六號 桂公爵記念賞

第一號 瀧本誠一編日本經濟叢書ニ對シ

大正八年五月廿五日

恩賜賞

第十九號 相對性原理萬有引力論及量子論ノ研究ニ對シ

帝國學士院賞

第十七號 「漢字」ノ研究(古稿篇)ニ對シ

第十八號 癌ノ研究ニ對シ

第二十號 滿掩青銅其他ノ銅合金及鑄鐵ノ鑄造ニ關スル研究ニ對シ

理學博士 柴田桂太

醫學博士 桂田富士郎

醫學博士 藤浪 鑑

法學博士 瀧本誠一

醫學博士 石原 純

醫學博士 高田忠周

受賞者

八九

受賞者

大正九年五月三十日

恩賜賞

第二十號 (三浦周行著法制史之研究ニ對シ)

文學博士 三浦周行

第二十一號 (脂油ノ研究ニ對シ)

工學博士 辻本滿丸

帝國學士院賞

第二十一號 (大村西庵著密教發達志ニ對シ)

大村西崖

第二十二號 (晉ノ異常傳播ノ研究ニ對シ)

理學博士 藤原咲平

桂公爵記念賞

第二號 (臺灣植物ノ研究ニ對シ)

理學博士 早田文藏

大正十年五月二十二日

恩賜賞

第二十二號 (辻善之助著日本佛教史之研究ニ對シ)

文學博士 辻善之助

第二十三號 (腦ノ解剖的研究ニ對シ)

醫學博士 布施現之助

帝國學士院賞

第二十三號 (クモヒトデノ研究ニ對シ)

理學博士 松本彦七郎

九〇

第二十四號 (日本刀ノ研究ニ對シ)

工學博士 俵國一

桂公爵記念賞

第三號 (河豚ノ毒素ノ研究ニ對シ)

藥學博士 田原良純

大正十一年五月二十一日

恩賜賞

第二十四號 (スタルク「效果」ノ研究ニ對シ)

理學博士 高嶺俊夫

第二十五號 (究ニ對シ)

理學博士 吉田卯三郎

帝國學士院賞

第二十五號 (生體染色法ニ就テノ研究ニ對シ)

醫學博士 清野謙次

第二十六號 (傳動軸ノ振レ計ノ研究ニ對シ)

工學博士 末廣恭二

大正十二年五月二十七日

恩賜賞

第二十六號 (德富猪一郎著近世日本國民史ニ對シ)

德富猪一郎

第二十七號 (柿村重松著本朝文粹註釋ニ對シ)

柿村重松

第二十八號 (漢藥成分ノ化學的研究ニ對シ)

藥學博士 朝比奈泰彦

受賞者

九一

第二十九號(放射線ニ關スル研究)

理學博士 木下季吉

第二十四 藤田男爵獎學費受費者

大正六年十二月
大正七年六月

東京帝國大學法科大學法律學科學生

山路 鎮夫

大正六年度及七年度羅馬法學獎學費

大正六年十二月
大正七年十月

京都帝國大學大學院學生

栗生 武夫

同

大正七年十月

東京帝國大學大學院學生

辻村 太郎

大正七年度採鑛冶金學及關係學科獎學費

大正八年七月

東京帝國大學法學部法律學科學生

永井 由松

大正八年度羅馬法學獎學費

同

同

水野 伊太郎

黒田 鴻五

大正八年度採鑛冶金學及關係學科獎學費

東京帝國大學大學院學生

青山 秀三郎

同

京都帝國大學工學部採鑛冶金學科學生

澤村 宏

大正九年七月

東京帝國大學法學部法律學科學生

船田 享二

大正九年度羅馬法學獎學費

同

京都帝國大學大學院學生

栗生 武夫

同

大正九年度採鑛冶金學及關係學科獎學費

東京帝國大學大學院學生

青山 秀三郎

同

佐藤 才止

大正十年七月

大正十年度羅馬法學獎學費

同

大正十年度探鑛冶金學及關係學科獎學費

同

同

同

大正十一年六月

大正十一年度羅馬法學獎學費

同

大正十一年度探鑛冶金學及關係學科獎學費

同

東京帝國大學大學院學生

船田享二

京都帝國大學法學部法律學科學生

中島清二

東京帝國大學大學院學生

佐藤才止

青山秀三郎

平社敬之助

京都帝國大學大學院學生

倉內吟二郎

東京帝國大學法學部法律學科學生

石井茂樹

入江俊郎

東京帝國大學大學院學生

青山秀三郎

平社敬之助

京都帝國大學大學院學生

倉內吟二郎

三好新八

東京帝國大學法學部法律學科學生

富田六郎

近藤英吉

東京帝國大學大學院學生

池田三郎

鈴木醇

京都帝國大學大學院學生

松波秀利

第二十五 子爵夫人末松生子羅馬法獎勵獎

學品受品者

大正七年十一月

藤田男爵獎學費受費者

子爵夫人末松生子羅馬法獎勵獎學品受品者

東京帝國大學法科大學法律學科學生

安岡正光

山路鎮夫

鈴木享市

坂千秋

黒田鴻五

我妻榮

京都帝國大學法科大學學生

栗生武天

末川博

田村德治

小栗栖國道

井川恭

大正八年十一月

東京帝國大學法學部法律學科學生

水野伊太郎

永井由松

堀五之介

船田享二

佐藤基

平野義太郎

京都帝國大學法學部又八法學部學生

井上直三郎

水谷長三郎

江村高行

藤井崇治

大正九年十一月

東京帝國大學法學部法律學科學生

高木益郎

吉田幸太郎

今津好孝

進藤馨

小牧義夫

勝本正晃

東京帝國大學法學部法律學科學生

佐喜眞興英

井出正孝

伊藤香象

佐藤幸吉

京都帝國大學法學部法律學科學生

淺見隆平

平田央

中島清二

位原覺

中野峰史

廣濱嘉雄

並川義隆

阪井貞一

濱田潔夫

水谷秀雄

大正十年十一月

東京帝國大學法學部法律學科學生

杉村正

山田義見

神古百市

井上萬壽藏

京都帝國大學大學院學生

牧健二

京都帝國大學法學部法律學科學生

江口新

綿谷清

坂義彦

江口定太郎

東京帝國大學法學部法律學科學生

引田重夫

鈴木秀夫

平井三次

松坂佐一

木内信胤

宇佐美正祐

鮫島龍馬

森島龍馬

柴田義彦

水谷良一

大正十一年十二月

大正十一年十二月

京都帝國大學大學院學生

竹谷源太郎

入江俊郎

片野重藏

高橋一郎

土井健二

後藤藤清

早稻田大學法學部法律學科學生

井上秀三

同大學

圖書館

東京帝國大學法學部法律學科學生

富田六郎

松岡平市

石井茂樹

岩松五良

板倉勝朝

秋山五郎

田中周友

赤地芳雄

和博

和博

赤地芳雄

和博

赤地芳雄

和博

赤地芳雄

和博

赤地芳雄

和博

赤地芳雄

大正十二年六月

大正十一年六月

京都帝國大學大學院又ハ法學部法律學科學生

深澤家治 角井貞淑
工藤友惠

黒田覺 板本郁郎

近藤英吉 平野勇左衛門

津田東太郎 三宅一郎

小田春雄

早稻田大學法學部法律學科學生

白井敬夫

法政大學

圖書館

第二十六 補助研究事項

(機械貸付)

自明治四十一年至大正十年

微菌學ニ關スル研究

×醫學博士 緒方正規

「イオン」ノ熱化學ニ關スル研究

理學博士 櫻井錠二

火山岩研究

理學博士 小藤文次郎

「ゼーマン」效果ノ研究

理學博士 長岡半太郎

(研究費補助)

(要求者)

自明治四十二年度至同四十四年度

文學博士 井上哲次郎

大正二年度

類聚古集ノ複寫

文學博士 上田萬年

支那哲學研究材料

×文學博士 星野恒

日本道德史料ノ研究

文學博士 井上哲次郎

大正三年度

支那哲學研究材料

×文學博士 星野恒

日本道德史料ノ研究

×文學博士 井上哲次郎

補助研究事項

日本梵語史料研究

X線ト其利用方法ニ就キ研究

緯度變化式ニ於ケルZ項ノ研究

大正四年度

X線ト其利用方法ニ就キ研究

新撰字鏡刊行

日本梵語學史料研究

日本道德史資料研究

大正五年度

日本道德史資料研究

梵文學史事項取調

本居宣長ノ日記及書翰蒐集整理

文學博士 高楠順次郎

理學博士 長岡半蔵

理學博士 長岡半蔵

理學博士 長岡半蔵

文學博士 大槻文彦

文學博士 高楠順次郎

文學博士 高楠順次郎

X文學博士 井上哲次郎

X文學博士 井上哲次郎

文學博士 高楠順次郎

文學博士 上田萬年

琵琶湖附近及濃尾地方ニ於ケル地盤ノ垂直變動調査

大正六年度

日本道德史資料研究

大矢透研究ノ音圖及手習歌詞考ノ刊行

輪島ヨリ琵琶湖附近ニ亘ル地盤ノ垂直變動調査

「ハンザキ」ノ發生史研究、鯨腦及胎兒蒐集

工學博士末廣恭二研究ノ船舶動搖及其防止方法ニ關スル實驗

大正七年度

日本道德史資料研究

山田孝雄研究ノ一切經音義出版

釋大寂著梵語字書取調

後藤朝太郎ノ文字ヲ主材トスル支那古代文化ノ研究

井上良介ノ雪舟研究

X理學博士 大森房吉

理學博士 石川千代松

X文學博士 井上哲次郎

X文學博士 井上哲次郎

文學博士 上田萬年

X理學博士 大森房吉

理學博士 石川千代松

工學博士 古市公威

X文學博士 井上哲次郎

X文學博士 井上哲次郎

文學博士 上田萬年

文學博士 高楠順次郎

X文學博士 服部宇之吉

X法學博士 末松謙澄

「ハンザキ」ノ發生研究、鯨腦及胎兒蒐集 理學博士 石川千代松
 「アイノ」、日本人及石器時代ノ頭骨及長骨ノ統計的處理 醫學博士 小金井良精
 醫學博士井上通夫ノ人類及哺乳動物顔面ノ比較發生學研究 醫學博士 小金井良精
 櫻島附近地盤垂直變動調査 ×理學博士 大森房吉
 工學博士末廣恭二研究ノ船舶搖動及其防止法ニ關スル實驗 工學博士 古市公威
 西村眞次ノ古代船舶ノ研究 文學博士 芳賀矢一
 大正八年度
 山田孝雄研究ノ一切經音義出版 文學博士 上田萬年
 文學博士林泰輔ノ龜版骨版文字ノ研究 文學博士 服部宇之吉
 諸橋轍次ノ經書ヲ中心トシテ支那社會組織ノ研究 文學博士 服部宇之吉
 北海道有珠山附近地盤垂直變動調査 ×理學博士 大森房吉
 「ハンザキ」ノ發生研究 理學博士 石川千代松
 坪井誠太郎ノ朝鮮鬱陵島地理及火山調査 理學博士 小藤文次郎
 醫學博士山極勝三郎ノ痛ノ研究 醫學博士 佐藤三吉

工學博士末廣恭二研究ノ船舶動搖及其防止方法ニ關スル實驗

工學博士 古市公威

西村眞次ノ古代船舶ノ研究

文學博士 芳賀矢一

大正九年度

經書ヲ中心トシテ支那社會組織ノ研究

諸橋轍次

本邦王朝時代ニ於ケル漢文學上ノ著作ノ校訂並ニ註釋六國史ニ見ハレタル詔勅及奏議上表類ノ註釋

文學博士 小柳司氣太

國文學書所在目錄編輯

文學博士 芳賀矢一

信越激震地帯大町、松本、糸魚川間地盤垂直變動ノ調査

×理學博士 大森房吉

「ハンザキ」ノ研究

理學博士 石川千代松

鯨ノ研究

理學博士 石川千代松

光波長比較ニ關スル研究

理學博士 長岡半太郎

大正十年度

昌平坂學問所ト林家トノ研究

高瀬代次郎

朝鮮ノ文字及言語ノ性質ニ關スル研究

文學博士 白鳥庫吉

金魚ニ於ケル遺傳關係ノ研究

醫學博士 石原誠

植物ノ遺傳ニ關スル研究

悪性腫瘍殊ニ肉腫ノ發生ニ關スル實驗的研究

痛腫ノ實驗的研究

廣島縣震災地方ニ於ケル地盤垂直變動調査

鯨魚ノ胎兒研究

「ハンザキ」ノ發生研究

大正十一年度

日本經濟叢書ノ索引ノ編纂出版

印度マヌ法典翻譯

本生話文學翻譯

正倉院御物蒙求老子經及興福院所藏古葉略類聚鈔ノ刊行

昌平坂學問所ト林家トノ研究

我邦ト歐洲諸國トノ交通史料ノ研究

日本古代船舶ニ關スル研究

醫學博士 今三井宅喜一

醫學博士 緒方真太郎

醫學博士 山極勝三郎

×醫學博士 大森房吉

醫學博士 石川千代松

醫學博士 石川千代松

法學博士 瀧本誠一

文學博士 中野義照

文學博士 長井真琴

文學博士 佐々木信綱

文學博士 高瀬代次郎

文學博士 三上參次

文學博士 西村真次

金魚ニ於ケル遺傳關係ノ研究

植物ノ遺傳ニ關スル研究

出雲國宍道ヨリ石見國濱田ニ至ル地盤ノ垂直變動調査

内腫發生ニ關スル實驗的研究

痛腫及肉腫ノ人工的發生ニ關スル實驗的研究

日本石器時代人骨ノ蒐集

「ハンザキ」ノ研究

鯨腦及胎兒蒐集

大正十二年度

。德川時代ノ諸侯ノ學術著作ニ就テ

正倉院御物蒙求、同老子零卷ノ撮影印行

昌平坂學問所ト林家トノ研究

本生經翻譯

摩奴法典翻譯

醫學博士 石原誠一

醫學博士 今三井宅喜一

×醫學博士 大森房吉

醫學博士 緒方真太郎

醫學博士 山極勝三郎

醫學博士 小金井良精

醫學博士 石川千代松

醫學博士 石川千代松

文學博士 福井久藏

文學博士 佐々木信綱

文學博士 高瀬代次郎

文學博士 長井真琴

文學博士 中野義照

。道教ノ研究(主トシテ抱朴子ノ研究)

。我邦ト歐洲諸國トノ交通史料ノ蒐集及研究

癌腫ニ關スル研究

杭體發生ニ由ル癌腫實驗的治療法ノ實驗

日本石器時代民族研究

生體ニ於ケル類脂肪體ノ臨床的研究

。電流ニ因ル筋收縮ヲ無痛ナラシムル生理學的條件並ニ電流刺激ニ對スル知覺問題

神經系統ノ比較解剖學的研究

。糖尿病ノ實驗的研究

。白血球ノ生物學的研究

ハンザキ研究

。未所屬榮養素ノ研究

小柳 司氣太

村上 直次郎

山極 勝三郎

山極 勝六郎

相原 三郎

小金井 良精

森半 兵衛

石川 憲夫

三浦 謹之助

植松 七九郎

佐武 安太郎

綿引 朝光

石川 千代松

文學博士 醫學博士 醫學博士 醫學博士 醫學博士 醫學博士 醫學博士 醫學博士 醫學博士 醫學博士

α線ノ通路ニ於ケル原子的ノ諸現象

植物ノ遺傳ニ關スル研究

。原子ノ「イオン」化狀態ト輻射「スペクトル」トノ關係

胞子蟲類ニ據ル魚病

松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ノ利子ヲ以テセルモノ

。平安時代ニ於ケル社寺領ノ研究

。江戸時代ニ於ケル諸大藩ノ財政ニ關スル研究

。支那經濟史料ノ系統の編纂

(一)支那正史中食貨志ノ國譯

(二)同上ノ解説並ニ註釋

(三)同上ノ地名人名ノ考證

(四)同上ノ索引ノ作製

「江戸時代農耕地所有及經營形態ノ研究」ノ一部トシテ

。江戸時代ヨリ明治初年ニ渉ル農民土地制度

(パウエルン、ギューター)ノ研究

支那ノ自然及社會ヲ背景トシテ支那文學特ニ近代文學ノ研究(支那留學)

木下 峰三郎

三宅 喜孝

今井 喜一

遠藤 美壽

藤田 經信

森谷 秀亮

土屋 喬雄

加藤 繁

和田 清

小野 武夫

岡田 秀夫

×岡田 秀夫

。灌溉水ト稻ノ成長トニ關スル研究
。種族特殊性ノ血清學的及形態學的研究

農學博士 吉川祐輝
醫學博士 清野謙次

大正十三年度

王子教育ニ關スル研究

西田宏

明治年間日誌ノ編成

五味金平

琉球諸島言語ノ研究

宮良當壯

支那及朝鮮ニ於ケル渤海並金時代ノ史蹟踏査

鳥山喜一

練習効果ノ實驗的研究

千輪浩

おもろ双紙校訂出版

幣原(外四名)坦

邦文マヌ法典校訂出版

文學博士 高楠順次郎

「デイゲスタ」法典翻譯

法學博士 春木一郎

病態組織増殖ニ腫瘍組織増殖ノ病理ニ關スル研究

醫學博士 藤森浪茂

松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ノ利子ヲ以テセルモノ

。支那ノ家族主義並ニ家族制度ノ研究(支那留學)

護國學派ノ研究

五經索引ノ作製

大阪毎日新聞寄附東宮御成婚記念獎學資金ヲ以テセルモノ

山口 察常
岩橋 遵成
森本 角藏

大阪附近ニ於ケル地殻潮汐ノ研究

理學博士 長岡半太郎
理學博士 志田順郎

病態組織増殖ニ腫瘍組織増殖ノ病理ニ關スル研究

醫學博士 藤森浪茂
醫學博士 森樹鑑

(XO印ハ死亡ニ關スル研究)

第二十七 東照宮三百年祭記念會へ補助

推薦ノ研究事項

大正五年四月推薦

「ワイル」氏病血清療法ニ關スル研究

(研究者)
醫學博士 稻田龍吉

人工的「バラバイオシス」ニ依ル内分泌ノ研究

上層氣流ト乙項トノ關係ニ關スル研究

大正六年二月推薦

享保時代ヲ中心トシテ觀タル經濟事情ノ研究

明治憲政史ノ研究及編纂

繪卷物研究

腦神經解剖學研究

鉛蓄電池容量增加方法研究

大正七年二月推薦

免疫體ノ化學的分離

徳川時代貨幣制度ノ研究

突風ノ構造ニ關スル研究

大名所領沿革調査

醫學博士 谷津直秀
理學博士 木村榮

中村孝也

工藤武重

上野直昭

布施現之助

醫學博士 降矢芳郎

醫學博士 三田定一

醫學博士 古畑種基

理學博士 本庄榮治郎

文學博士 寺田寅彦

文學博士 喜坪井九馬吉

太陽黑點ト「カルシウム、フロキユリ」トノ關係ノ研究

大正八年二月推薦

參觀交代制度ノ研究

「マイマイ」蛾ノ遺傳試驗

徳川時代貨幣制度ニ關スル研究

煮沸免疫元ニ關スル研究

免疫體ノ化學的分離

大正九年二月推薦

日光地方植物景觀ニ關スル研究

大正九年二月推薦

有史以前滿韓ノ研究

日光ニ神佛分離事件調査
於ケル

醫學博士 早乙女清房

文學博士 竹下昌次郎

文學博士 町田次郎

醫學博士 本庄榮治郎

醫學博士 鳥瀨隆三

醫學博士 三田定一

醫學博士 淺田種雄

理學博士 緒方益雄

理學博士 草野俊助

文學博士 鳥居龍藏

文學博士 辻村善之助

煮沸免疫元ニ就テ

マイノ蛾遺傳研究

日光地方植物景觀

免疫體ノ化學的分離

大正十年二月推薦

有史以前滿韓ノ研究

神佛分離事件調査

文選正文及六臣註ヲ諸本ニ據リテ比較研究シ定本ヲ作ルコト

東洋古代ノ天文ニ關スル材料蒐集整理ノ研究

五辻宮ノ御事蹟ノ研究

免疫體ノ化學的分離ニ關スル研究

醫學博士

鳥 湯 隆 三

醫學博士

町 田 次 郎

理學博士

草 野 俊 助

醫學博士

淺 三 田 定 一 則

醫學博士

淺 三 田 定 一 則

醫學博士

鳥 居 龍 藏

文學博士

辻 村 上 善 一 助

文學博士

芝 野 六 助

文學博士

芝 野 六 助

文學博士

芝 野 六 助

文學博士

芝 野 六 助

文學博士

芝 野 六 助

醫學博士

淺 三 田 定 一 則

醫學博士

淺 三 田 定 一 則

日光地方植物景觀ニ關スル研究

マイノ蛾遺傳研究

大正十年十一月推薦

有史以前滿韓ノ研究

文選正文及六臣註ヲ諸本ニ據リテ比較研究シ定本ヲ作ルコト

神佛分離事件ノ調査

アイヌ文様ノ研究

東洋古代ノ天文ニ關スル材料ノ蒐集整理ノ研究

魚體ニ及ホス甲状腺ノ影響ノ研究

藥物ノ藥効學的作用ニ對スル「コロイド」ノ態度ニ關スル研究

胞子蟲類ニ據ル魚病ノ研究

筋緊張ノ高等中樞ニ關スル研究

理學博士

草 野 俊 助

文學博士

町 田 次 郎

文學博士

鳥 居 龍 藏

文學博士

芝 野 六 助

文學博士

芝 野 六 助

文學博士

芝 野 六 助

文學博士

芝 野 六 助

文學博士

芝 野 六 助

文學博士

芝 野 六 助

醫學博士

淺 三 田 定 一 則

醫學博士

淺 三 田 定 一 則

醫學博士

淺 三 田 定 一 則

第一部々長

自明治三十九年七月十二日
至大正六年十月二十日

法學博士男爵 穂積 陳重

第二部々長

自明治三十九年八月
至同 四十二年六月

×理學博士男爵 菊池 大麓

自明治四十二年七月一日
至大正十年六月三十日

工學博士男爵 古市 公威

(×印ハ死亡)

第二十九 帝國學士院前會員及前客員

一、前會員

自明治三十九年六月十四日
至同 四十一年八月十四日

× 子爵 福羽 美靜

自明治三十九年六月十二日
至同 年八月三十日

×文學博士 黒川 眞頼

自明治三十九年六月十二日
至同 年十月三日

×文學博士 根本 通明

自明治三十九年六月十二日
至同 年十二月廿二日

理學博士 山川 健次郎

自明治三十九年六月十四日
至同 四十二年二月十八日

×醫學博士子爵 橋本 綱常

自明治三十九年十月廿四日
至同 四十一年三月十一日

×文學博士 佐藤 誠實

自明治三十九年九月十七日
至同 四十二年九月十七日

×理學博士 箕作 佳吉

自明治三十九年九月十四日
至同 四十三年八月廿五日

×法學博士 梅謙次郎

自明治三十九年六月十二日
至同 四十三年十二月六日

×文學博士 重野 安釋

自明治三十九年六月十二日
至同 四十四年九月十五日

× 男爵 大鳥 圭介

自明治四十四年二月廿六日
至同 四十四年九月六日

×工學博士 下瀬 雅允

自明治三十九年九月十四日
至大正元年十月五日

×法學博士 穂積 八束

自明治三十九年九月十四日
至大正元年十二月十三日

×文學博士 元良 勇次郎

自明治三十九年九月十四日
至大正二年二月十五日

×文學博士 本居 豐穎

自明治三十九年六月十二日
至大正二年四月十四日

×文學博士 木村 正辭

自明治二十九年九月 至同三十九年八月	自明治三十六年十二月 至同三十七年十二月	自明治三十一年十二月 至同三十二年四月	自明治三十三年四月 至同三十四年七月	自明治三十四年七月 至同三十五年八月	自明治三十四年十二月 至同三十五年二月	自明治三十八年八月 至同三十九年六月	自明治三十九年六月 至同三十九年八月
△	△	△	△	△	△	△	△
文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士
重川野	杉亨	外山	菊池	田中	田中	田中	田中
野安	亨	山	池大	中芳	中芳	中芳	中芳
野安	亨	山	池大	中芳	中芳	中芳	中芳

第三十一會 元東京學士會院會員及客員

自明治二十二年一月十五日 至同三十一年七月五日	自明治二十二年一月十五日 至同二十五年十二月一日	自明治二十五年十二月一日 至同二十六年九月三日	自明治二十二年一月十五日 至同二十四年六月七日	自明治二十二年一月十五日 至同二十四年二月十五日	自明治二十二年一月十五日 至同十九年十二月三日	自明治二十二年一月十五日 至同二十二年七月十九日	自明治二十二年一月十五日 至同十五年三月廿九日	自明治二十二年一月十五日 至同三十年三月十五日	自明治二十二年一月十五日 至同三十四年一月二十四日	自明治二十二年一月十五日 至同三十五年八月十八日
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士
津田	津田	津田	津田	津田	津田	津田	津田	津田	津田	津田
津田	津田	津田	津田	津田	津田	津田	津田	津田	津田	津田

自明治十二年四月二十八日
至同 三十九年六月十二日

自明治十二年五月十五日
至同 三十九年六月十五日

自明治十二年五月十五日
至同 三十九年六月十五日

自明治十二年五月十五日
至同 三十九年六月十五日

自明治十二年五月二十八日
至同 三十九年六月十二日

自明治十二年六月十五日
至同 十四年一月十五日

自明治十二年六月十五日
至同 二十二年二月十二日

自明治十三年三月十五日
至同 三十年十二月一日

自明治十四年五月十五日
至同 十五年十月五日

自明治十四年六月十一日
至同 三十九年六月十二日

× 法學博士 杉 享 二

× 男爵 細川潤次郎

× 文學博士 小幡篤次郎

× 文學博士 重野安釋

× 文學博士 川田剛

× 子爵 福羽美靜

× 子爵 阪谷素

× 子爵 森有禮

× 法學博士男爵 箕作麟祥

× 男爵 鷺津宜光

× 男爵 大島圭介

自明治十四年十一月七日
至同 三十九年六月十二日

自明治十五年六月六日
至同 二十八年十月十一日

自明治十五年十一月七日
至同 二十三年一月十日

自明治十八年九月十六日
至同 二十六年六月七日

自明治十八年九月十六日
至同 三十九年五月廿三日

自明治十八年十一月十五日
至同 二十五年七月廿七日

自明治十八年十一月十五日
至同 三十九年六月十二日

自明治十八年十一月十五日
至同 三十九年六月十二日

自明治十八年十一月十五日
至同 三十九年六月十二日

自明治二十年二月十三日
至同 三十三年三月八日

自明治二十二年四月十四日
至同 三十九年六月十二日

× 文學博士 黑川真頼

× 文學博士 小中村清矩

× 文學博士 村上英俊

○ × 伯爵 寺島宗則

○ × 子爵 谷干城

× 文學博士 原坦山

× 文學博士 三島毅

× 醫學博士 田中芳男

× 醫學博士 三宅秀

× 文學博士 外山正一

× 理學博士男爵 菊池大麓

自明治二十二年十月十三日
至同二十八年三月十八日
自明治二十三年六月十八日
至同二十九年六月十二日
自明治三十五年一月十七日
至同三十一年八月廿七日
自明治三十八年五月十二日
至同三十九年六月十二日
自明治三十九年五月十二日
至同三十九年六月十二日
自明治三十九年五月九日
至同三十九年六月十二日
自明治三十一年二月十三日
至同三十九年六月十二日
自明治三十一年四月十七日
至同三十九年六月十二日
自明治卅一年十二月十一日
至同三十九年六月十二日
自明治三十二年二月十二日
至同三十九年六月十二日

×醫學博士	岡松	斐谷
×文學博士	木村	正辭
×文學博士	島田	重禮
×文學博士	井上	哲次郎
×醫學博士	大澤	謙二
×法學博士	穗積	陳重
○×理學博士	箕作	于佳吉
○×醫學博士	緒方	正規
×理學博士	櫻井	鏡二
×法學博士	宮崎	道三郎
×理學博士	小藤	文次郎

自明治三十三年一月十四日
至同三十九年六月十二日
自明治三十四年六月三十日
至同三十九年六月十二日
自明治三十四年五月六日
至同三十九年六月十二日
自明治卅五年十二月十四日
至同三十九年六月十二日
自明治卅六年十二月十三日
至同三十九年六月十二日

一、客員

×文學博士	根本	通明
文學博士	坪井	九馬三
理學博士	山川	健次郎
醫學博士	小金	井良精
×理學博士	寺尾	壽

ギユスターヴ、ボアソナード、ド、フオンタラビー

(△印ハ文部大輔ヨリ會員報帖ヲ交付セラレシ者○印ハ勅選ニ係ル者其他ハ會長ヨリ會員報帖ヲ交付セラレシ者×印ハ死亡ノ者)

第三十二 大正七年五月十二日帝國學士院

授賞式ニ於ケル穗積院長ノ演説

來賓閣下並に諸君

日本本院に於て授賞式を舉行するに際し各位の御臨場を辱くしたるは本院の光榮とする所でありまして茲に一同に代つて深厚なる謝意を表します。

抑本邦に於ける學士院の設置は之を泰西諸國が數百年前より之を有するものに比すれば日尙ほ淺く隨つて其性質も未だ普く世人の熟知する所と爲つて居りませぬゆへ此機會に於て本院の性質及職務は帝國學士院規定第一條に明記してあるはしたいと存じます。本院の目的及職務は帝國學士院規定第一條に明記してある通り學術の發達を圖り教化を裨補するにありまして泰西諸國に於ける學士院も概ね皆同一の目的を以て設立せられて居るものであります。此目的を有する帝國學士院は左の三つの資格を合せ有するものであります。

一、内に在りては學問の中心機關たること

二、外に對しては世界各國に於ける學問の聯絡機關たること

三、學者優遇の府たること

此三つの資格を有することは略ほ各國の學士院共通の性質とも云ふべきものであります。今右の三資格に付て少しく之を敷衍して説明致しますれば

第一、學士院は學問の中心機關たること

學士院の職能が一國の學問の中心たるに在る事は既に百年前に彼の有名なる天文學者「ラブラース」が論じて居りまして、凡そ一國に於ける學問の機關は大學を始め諸學校研究所學會等があり又個人の學問研究者もありますが學士院の大學其他の機關と異なる所は大學は學問の教育及研究の最高機關であり其他の機關も或は此二者を目的とし或は其一を目的とする者であります。が學士院は自身教育機關にも非ず、又研究機關にも非ずして各大學其他の高等學術團體及學者の中央に居て學術の發達を圖るを以て其職分とするものであります。本院が此任務を盡すに付て是迄採り來りたる方法に付ては略ほ泰西諸國の學士院の採り來りたるものと同じく主として左の數件であります。

一、學術研究の補助及獎勵

本院の議決に依り特別なる研究の必要を認め會員又は會員外の者をして之を擔當せしめ其費用を補助し又は器械を貸付し又會員若くは會員外の學者より研究費補助の請求あるときは各部に於て委員を設けて審査を爲さしめたる上總會の議決を経て前同様の補助をいたします。

二、學術研究の獎勵

本院の議決に依り特に獎勵を要する學術に對して前同様の手續に依り研究者に獎學金又は獎勵品を支給いたします。

三、學術研究補助の推薦

學術研究補助者の依託に依り本院に於て委員を設けて其研究科目を審査し其補助の必要の程度に應じて推薦を爲すことがあります例へば東照宮三百年祭記念會は毎年巨額の費用を支出して學術研究を補助することゝ爲つて居りますが本院は同會の依嘱に依り毎年補助科目の審査を爲し其結果を同會に報告して研究補助の推薦をいたします。

四、新研究の結果の發表

學士院は各國に於ても學者の創始的新研究を發表する公認機關と爲つて居りまして同一事項に於て二人若くは二人以上の學者が殆んど同時に發見を爲すことは學問歴史に敢て珍らしからぬ事でありますが通常の場合に於ては其發見の先順位プライオリティーの名譽は先に學士院に於て發表したる者に屬します我學士院に於きましては會員の研究は勿論會員の紹介に依り會員以外の學者の新研究の結果が報告せられました之を學士院の紀事又は論文集等に載せて世界に發表せられます。今回恩賜賞を授與せられます柴田博士の「フラヴォール」研究の如きも前後兩回本院に報告せられたものであります。

五、出版

本院に於ては前述新研究の結果に關する報告論文等の外故人又は今人の著作にして學術上最も有益なるものは他に出版者無きときは之を出版することがあります。

六、授賞

學術の進歩上最も有益なる研究の結果に對しては本院に於て最も慎重なる審査を行つた上毎年授賞致す事になつて居ります。授賞の制も各國に於て最も盛に行はれて居る所でありますが我邦に於ては明治四十三年に本院に於ける學術獎勵事業の趣旨が恭くも天聽に達し賞典資御下賜の旨難有き御沙汰を拜しまして其翌年より毎年授賞式を行ふことに相成り、次で男爵三井八郎右衛門氏及男爵岩崎久彌氏より寄附せられたる學術研究獎勵費をも賞典資に充つることとなりました。

第二學士院は世界各國に於ける學問の聯絡機關たること。歐米諸國の學士院は前述の通り既に數百年若くは數十年前より設立せられて居るものでありますが近年に至り其事業は愈發展して参りまして前世紀の末年即ち一八九九年に萬國學士院聯合會の設立が議定せられ聯合會に屬する學士院は協同して學術の世界的事業に従事し且つ互に聯絡を保ちて學術の進歩を圖ることゝ爲り、一九〇六年に至り我帝國學士院も之に加入し爾來每會本院より代表者を出し來りました。今回も此開戦中に英國の皇立學士院（ロイヤルソサイエチー）の

首唱に依り從來萬國學士院聯合會に於て行ひ居たる事業を將來如何なる方法に依りて遂行すべきかの問題に付き聯合諸國の學士院代表者會議を開設する事に決定しましたから會員櫻井田中館兩博士が本院を代表して同會議に列せらるゝ事になつて居ります。

第三學者優遇の府たること。

學士院は學者優遇の府でありまして歐米諸國に於きましても學士院會員は其數を限り碩學中より最も嚴重なる規則に依りて選舉せられますから其會員たる事は學者の至大なる榮譽とし國家社會より學者優遇の府と看做されて居ります。我帝國學士院も會員に定數あり且つ最も嚴重なる選舉法に依り推薦することゝ成つて居りますから缺員ある毎に之を補充するには時としては一年餘もかゝる事がある位であります。本院に於て推選したる會員は勅旨を以て命ぜられ、勅任の待遇を賜ひ又規程上高齢者には特に年金を賜ふ事があることに爲つて居ります。又最近に至り政府より本院會員に鐵道乗車券の交付もありました。本院には前に述べました如く皇室より賞典資の御下賜ありますのみならず此度は圖らず

も會員一同を離宮に召されて午餐を賜はるの恩命を拜し會員一同學問御獎勵の聖旨に對し奉り感激の至に耐へず倍々責任の重きを感じる次第であります。

本院の性質及事業は概ね前に述べました通りであります但我邦に於ては學士院の設立日尙ほ淺く世人未だ充分に其性質を知らざる爲之を歐米諸國の盛大に比すれば未だ極めて微々たる者であります然し乍ら上に述べましたる皇室の厚き御保護があります外近年に至り殊に大戰勃發以來本邦に於ても一般の社會が漸く學問の威力を認むるに至り各方面より本院の事業を贊助するの舉の追々と殖えて参りますのは學問進歩の爲め誠に喜ばしき次第であります前記皇室御下賜金及三井男爵岩崎男爵の寄附金の外工學博士藥學博士高峰讓吉君男爵住友吉左衛門君男爵古河虎之助君男爵藤田平太郎君三井合名會社山下龜三郎君故桂公爵記念事業會及末松子爵夫人より各學術獎勵金の寄附があり又山下龜三郎君より學士院の建物寄附の申出があります。

扱本日授賞に相成りまする和川英松君輯宸記集及皇室御撰解題木村泰賢君著印度六派哲學、理學博士柴田桂太君の植物界に於ける「フラヴォン」體の研究醫學博士

理學博士桂田富士郎君及醫學博士藤浪鑑君の日本住血吸蟲病の研究及法學博士瀧本誠一君編日本經濟叢書に關する授賞の理由は是より會員が説明せられますから之に譲りますが是等の著作又は研究に對する擬賞の審査及部會並に總會の審議は最も鄭重なる手續を履むこととなつて居ります随つて之を受けらるゝ諸君の名譽は申すまでも無く斯の如き適當なる授賞の目的物を得たるは我學界の慶事と云はねばなりません茲に諸君の名譽に對し會員一同と共に祝意を表します。

第三十三 明治四十四年七月五日恩賜賞授

與式に於ける菊池前院長の演說

閣下並諸君

本日本院に於て初めて此授與式を舉行するに際し御臨場を辱ふしたるは一同に代りて深く謝する所であります是より一言學士院の性質及今日此の授賞を行ふに至つたる經過を申述べたいと存じ清聽を煩します帝國學士院は帝國學士院規

定第一條にある通り學術ノ發達ヲ圖リ教化ヲ裨補スルヲ以テ目的トスるのであります。まず學術の發達即ち創始的學術研究を獎勵する爲めに設立せられたるのであります。抑々一國の文明國民の品位は獨り陸海軍の強大産業の隆盛又は富の程度等物質的のものにのみ依るものでありませぬ。教育の發達學藝の進歩に多大の關係のあることは申すまでもないことであります。而して學士院は唯今申した通り此學術の發達を圖るものであります。からして文明國に於ては何れも學士院の設立のない所はありませぬ。而して學士院の盛なる所は即ち又其國の文明の盛なる所。其國の品位の高い所であります。文明國には何處にも必ず學士院はあります。其制度に於ては多少異なる所がありますが、其學術の發達獎勵の爲に貢獻すると云ふことに於ては皆一つであります。而して獎勵の方法は種々ありますが、其主なるものが四つあります。

第一は學士院の會員になると、國家及社會より名譽なる禮遇を受ける故に學士院會員になることは學者の常に名譽として希望する所である故に是即ち學術の研究獎勵になる一つの理由であります。

第二には學士院に於ては學術研究の補助を致します。或は學士院の方より指定して斯くくの研究が必要である之の爲めに若干の金を支出して此研究を然るべき人に託する。或は又學者の方よりして斯くの方法を以て此れくの研究を自分がしたいと思ふ。就ては是々の費用を要するのであるが其出處がないからどうぞ助けて貰ひたいと云ふやうなことで、或は器械或は材料或は助手等の爲めに費用を出して研究を補助することをして居ります。

第三には學者のした所の研究を世間に知らせると云ふことが重要なことであります。まず自分のした研究を成るべく早く確かなる道を以て世に發表することが即ち其研究に就いて自分が發明者たるの名譽を荷ふ適當の道であります。夫故に各國の學士院に於ては集會毎に會員自身の研究は勿論會員の紹介に依りて會員外の學者の研究の結果が提出されます。さうして之を學士院の紀事又は論文集等に載せて世界に發表します。尙ほ高尚なる學術上の著作にして到底民間出版者なきものを出版する等の事も此の部に屬します。要するに學者が自分の研究を發表する機關のあることは最も大切なることであります。而して確に學術研究獎勵の最重要な

る一方法であります。

第四には授賞の方法であります即ち過去何年間かの間に現はれた所の著書に對し或は研究に對し之に賞を授けると云ふことであります或は出版前に學士院に提出して學士院より之に賞を授けるものもあります。

以上は學術研究を奨勵する最も良き道であります。歐米の學士院に於ては第二第三第四の事業を盛に行つて居ります勿論是等の爲めに要する費用は少からぬこととありますけれどもそれ等は或は國庫よりの補助に依り或は個人の寄附等に依つて實に盛なることを致して居ります不幸にして我が學士院に於ては經費の不充分なる爲めに随分會員中には有益なる學術研究の考がありますけれども之に其研究を遂行するだけの補助を與へる途もありませぬ又記事等を印刷することも本年までは出来ませぬでしたから随つて第三の研究を公にするの途を開くこともありませぬでした随つて本院に提出せらるゝ所の論文等の數も至つて少ないこととありました本年よりは記事を印刷する筈にはなつて居りますが是とも多くの論文が出て來る場合に於ては十分にそれを皆印刷に附することは出

來ないやうな憫れなる次第であります。第四の授賞に就ても本院に於ては何も今日まではしなかつたのであります。學士院に於て是等のことに就て會員が苦心して居ることが何時しか天聽に達しまして昨年の本月本日有難い御沙汰書を戴きました即ち學術の研究の奨勵の爲めに十年間年々賞典資として二千圓宛御下賜相成ることになりましたので初めて第四の授賞に着手することが出来ました。會員一同感泣に堪へぬ次第であります。而して此の授賞の有難い思召しに對しては十分に御趣意の貫徹するやうにしなければなりません。先づ授賞規則を制定致しまして凡そ次の通り極めました。

授賞に就ては二通りの途を探ることにしました。一つは會員の推薦一つは論文の募集である會員の推薦とは如何なる研究と云ふことに限らず會員中に於て授賞に價すると考へた所のものを一定の時期に於て之を推薦することとあります。今一つは何々論題を定めてさうして其答案を募集すること。此二つの方法であります。さうして何れにしても其擬賞の審議に就ては最も鄭重なる手續を履むことに致しました。而して凡そ次の事項を定めました。賞は會員以外の者に限り授くるこ

と隨て會員の研究に對しては與へぬこと賞は年々各部に各々一個授くること尤も特別の場合には之を二つに分けて與へることも出來ると云ふことに致しました而して若し其當時に於て適當たる授賞候補者を發見せざる場合に於ては之を次の年に繰延ばし尙ほ適當なるもの無き時は適當なるものを發見するまで何時までも其儘にして置くこと賞は賞牌に賞金を添へて授けること。

斯の如く定めまして本年三月の例会に於て各部に於て推薦するべきものがあるならば推薦するやうにと云ふことになりました第一部に於ては今回推薦がありませぬでしたが第二部に於ては即ち今日授賞をせんとする木村博士が推薦になりましたそれより審査委員を選定して十分に審査を遂げ審査委員會部會及總會に於て孰れも全會一致の決議を経て今日愈々授賞をすことになりました木村博士の名譽は申すまでもなきことでありますが斯かる適當なる授賞の目的物のあつたことは吾が學術界の名譽として宜しからうと考へます尙其事業の概略に就ては是より會員長岡博士の説明がありますからそれに譲りますそれで斯くの如く學術上の研究を表彰することは奨励の方法として最も有力なるものゝ一と考

へます而して之に依りて本院の性質も益々廣く世間に知れることになり本院の目的を遂行する上に於て多大の便利を得るであらうと考へます是れは獨り本院の爲と云ふ譯ではありません國家の爲に最慶賀す可き次第と考へます而して今日此式典を擧げるを得たのは實に難有恩命の結果であります會員一同感謝措く能はざる所であります。

帝國學士

大正十三年四月

東京市下谷區上野公園内

帝國學士院

電話小石川、七二〇〇番

大正十三年

帝國學士院會員錄

(附、役員、及職員)

大正十三年四月調



帝國學士院

小 文 大 浪 平 二十 (大正十三年四月調) 十二

役

長

事

第一部部长

第二部部长

員

從三位勳一等法學博士勇爵

正三位勳一等理學博士

正三位勳一等文學博士

正三位勳一等理學博士

穗 積 陳

櫻 井 錠

井 上 哲 次 郎

藤 澤 利 喜 太 郎

大正 13. 5. 31 寄贈

寄贈本

第一部 從三位勳二等 法學博士 土方 寧 齋 一、番、四、七 (九段、四〇五)

第二部 正三位勳一等 理學博士 藤澤 利喜太郎 小石川、武島、二一 (小石川 八〇八)

第三部 正三位勳一等 醫學博士 三浦 謙之助 本郷、西片、二〇、〇 (小石川一、七四〇) 〇 (神田二、七六六)

第一部 從三位勳二等 理學博士 長岡 半太郎 櫻木、上、野 (下谷、二、六二四)

第一部 正三位勳一等 法學博士 岡野 敬次郎 麻布、六本木、六七 (高輪、五、〇九〇) (下谷、一、三三五)

第一部 正三位勳一等 法學博士 一木 喜德郎 本郷、駒込、曙、七 (小石川 七七七)

第一部 從三位勳二等 文學博士 上田 清 下、水、谷 一、七 (下、谷、二、二八五)

第二部 正三位勳一等 理學博士 松村 任三 本郷、駒込、曙、六 (小石川、六、三七〇)

第一部 從三位勳二等 文學博士 三上 參次 本郷、駒込 (小石川、四、六〇〇)

第二部 正三位勳二等 理學博士 中村 精男 牛、南、三三 (牛込、一、五九〇)

第一部 從三位勳二等 法學博士 金井 延 豊多、戸塚、源兵衛、一、九、四 (牛込、一、八五)

第二部 正三位勳一等 醫學博士 佐藤 三吉 本郷、駒込、曙、一、三、三 (小石川、六、九一一) (神田、六、九〇)

第一部 從三位勳二等 理學博士 平山 信 麻、永坂、一 (高輪、三、九三二)

第一部 正四位勳二等 法學博士 美濃 部達吉 小、竹、早、二、二、四 (小石川、一、八八〇)

第一部 從四位 文學博士 大槻 文彦 西、根岸、御行の松

第二部 正三位勳二等 理學博士 石川 千代松 四、大番、一九 (九段、四、〇二八)

第一部	正四位勳二等 文學博士	高楠順次郎	小、關口臺、五(牛込) 七八八
第一部	正四位勳三等 法學博士	山崎覺次郎	小、原、二六(小石川) 五九〇
第一部	從三位勳二等 文學博士	芳賀矢一	小、竹早、三三(小石川) 二、八〇二
第一部	正四位勳二等 文學博士	服部宇之吉	豐多、戸塚、 諏訪、一八三(牛込) 二、三六〇
第一部	正四位勳二等 法學博士	小野塚喜平次	小、小日向 二、三六(小石川) 二二二
第一部	正五位 文學博士	村上專精	小、林、三一(小石川) 三三二
第二部	正四位勳二等 醫學博士	伊藤隼三	京都、上京、寺町通 今出川上表一四(上京) 二、五八一
第二部	正三位勳二等 理學博士	水野敏之丞	京都、上京、 塔ノ段櫻木町(上京) 三、四二二

第一部	正四位勳二等 法學博士	織田萬	京都、下鴨、松ノ木、一八(上京) 一、九九六
第二部	正三位勳二等 理學博士	池田菊苗	五、富士見、 五ノ一六(九段) 二、二二二
第一部	從三位勳二等 文學博士	白鳥庫吉	任、目黒村、上目黒 宿山一五七五
第二部	正三位勳二等 醫學博士	山極勝三郎	本郷、駒込西片、 一〇、るノ一
第一部	正四位勳二等 文學博士	松本文三郎	市都、上京、 淨土寺、二(上京) 三、五三六
第一部	正四位勳二等 法學博士	春木一郎	本郷、駒込西片、 一〇、にノ三三
第二部	正三位勳二等 理學博士	三好學	本郷、駒込西片、 一〇、にノ一五(小石川) 一、七三三
第一部	從四位勳二等 法學博士	立作太郎	任、大崎、下大崎、 八、九(高輪) 一〇九

事務職員

文書部 佐原茂一 總、元、備、一文部省構内官舎

嘱託 金坂周次 本郷、駒込千駄木、二五〇大村米吉方

森川淳契 本郷、根津藍染、一〇、鹽田方

南雲由松 北豊、瀧ノ川、大字田端五四〇南雲方

和算史調査部員

猪俣一三 神田、表猿樂、二肥田ヒサ方

燃藜室記述調査部員

嘱託 文學博士 今西龍 京都、愛宕、田中大溝、四、若田方

帝室制度史調査部員

嘱託 文學博士 和田英松 市外、中野町桃園、三三〇〇 (小石川五、一四五)

同 諸橋 轍次 北島、高田、雜司ヶ谷、三三八

同 龍 肅 小石川、中富坂、元

同 文學博士 山本信哉 府下、淀橋、角筈、七、二、五

同 田邊 勝哉 赤、高樹、一四、六號

同 淺野 長武 本郷、向ヶ岡彌生、(小石川三、六三五)

同 櫻井 秀 本郷、駒込動坂、三、六、二

我邦卜歐洲諸國卜ノ交通史料調査部員

一一一

囑託 文學博士 村上直次郎 北豊多、長崎、
一〇五七 (小石川二〇七四)

同 山本 健 助 東京、
一〇五七 (小石川二〇七四)

同 文部博士 山本 健 助 東京、
一〇五七 (小石川二〇七四)

同 山本 健 助 東京、
一〇五七 (小石川二〇七四)

同 山本 健 助 東京、
一〇五七 (小石川二〇七四)

同 山本 健 助 東京、
一〇五七 (小石川二〇七四)

帝室歸史史蹟調査部員

同 山本 健 助 東京、
一〇五七 (小石川二〇七四)

同 山本 健 助 東京、
一〇五七 (小石川二〇七四)

大正十三年四月

東京市下谷區上野公園内

帝國學士院

電話小石川七、二〇〇番

一一三

97
392

13.8.1 Z

終

